

「飛島公共交通バス（名港線）の利用者アンケート調査」
調査結果概要版

平成 22 年 11 月

目次

I	調査の概要	1
II	調査結果	
1	アンケート対象の属性	2
2	本日、利用されたバス停	5
3	行きのバスに乗車されるまでの移動手段と 行きのバスから降車されてからの移動手段	6
4	当該バスの利用頻度	7
5	当該バスの利用目的	7
6	当該バスの運行サービスの満足度	8
7	運行内容におけるサービス向上について	13

I 調査の概要

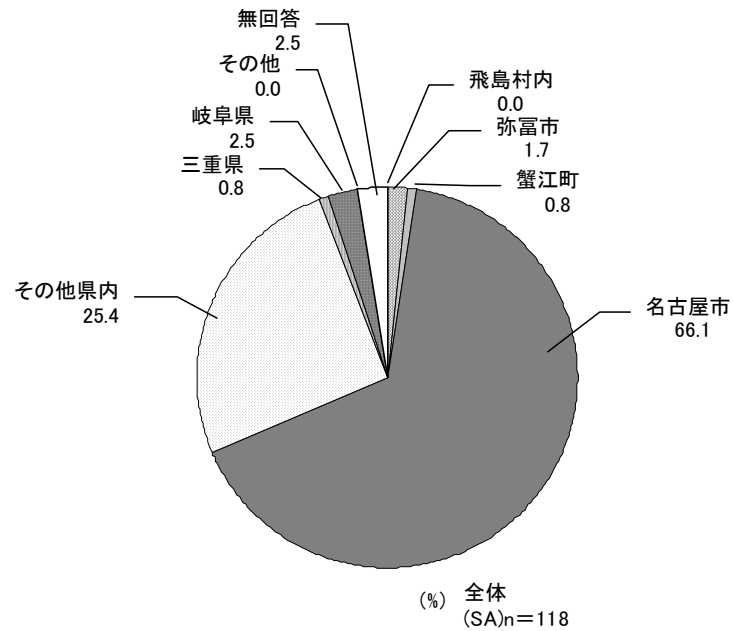
(1) 調査対象	飛島公共交通バス（名港線）の利用者
(2) 調査方法	配布調査
(3) 調査期間	平成22年9月27日（月曜日）
(4) 標本数	118人
(5) 調査実施主体	飛島村役場総務部企画課
(6) 調査機関	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

II 調査結果

1. アンケート対象の属性

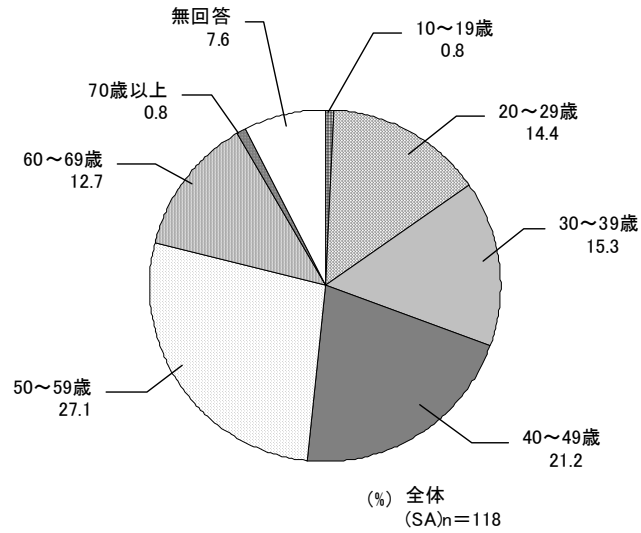
(1) お住まい

○ 「名古屋市」に居住されている方が 66.1%、「弥富市」が 1.7%、「その他県内」が 25.4%、「三重県」が 0.8%、「岐阜県」が 2.5%です。



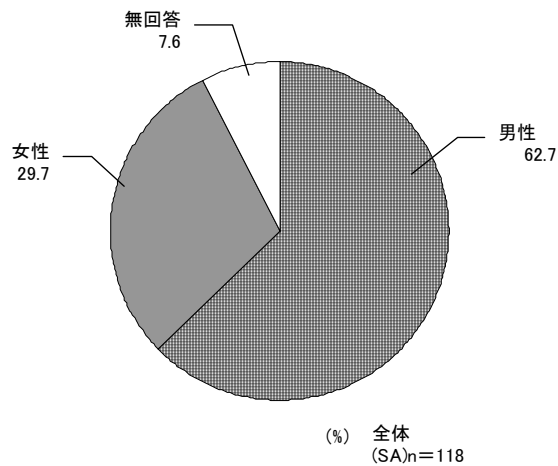
(2) 年齢

○ 「10歳台」が0.8%、「20歳台」が14.4%、「30歳台」が15.3%、「40歳台」が21.2%、「50歳台」が27.1%、「60歳台」が12.7%、「70歳以上」が0.8%となっています。



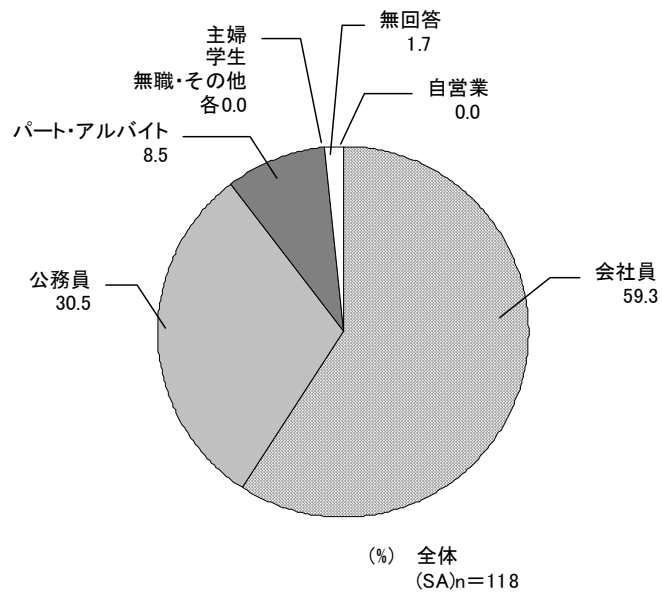
(3) 性別

○ 「男性」が62.7%、「女性」が29.7%です。



(4) 職業

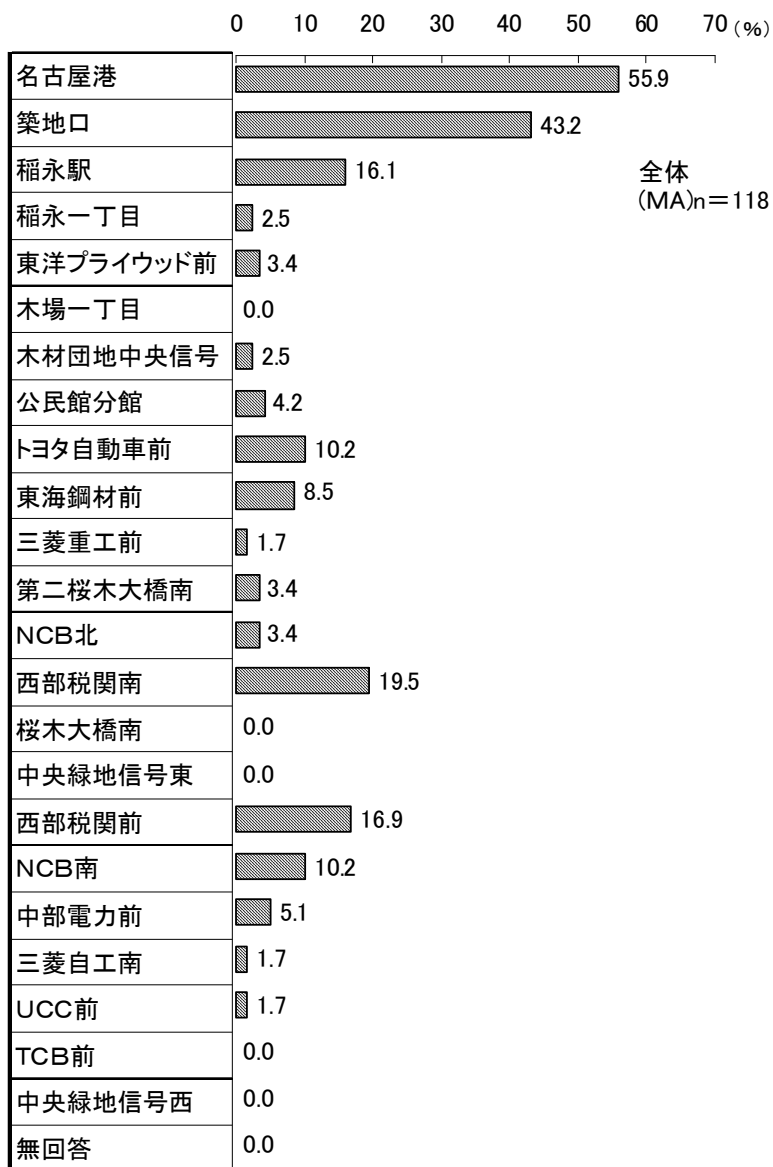
○ 「会社員」が59.3%、「公務員」が30.5%、「パート・アルバイト」が8.5%です。



2. 本日、利用されたバス停

○ 乗車されたバス停は「名古屋港」が55.9%、「築地口」が43.2%、「稲枝駅」が16.1%、「稲永一丁目」が2.5%です。一方、降車されたバス停は「西部税関南」(19.5%)、「西部税関前」(16.9%)、「トヨタ自動車前」・「NCB南」(各10.2%)などの比率が高くなっています。

図表1 本日、利用されたバス停（平日・休日別）

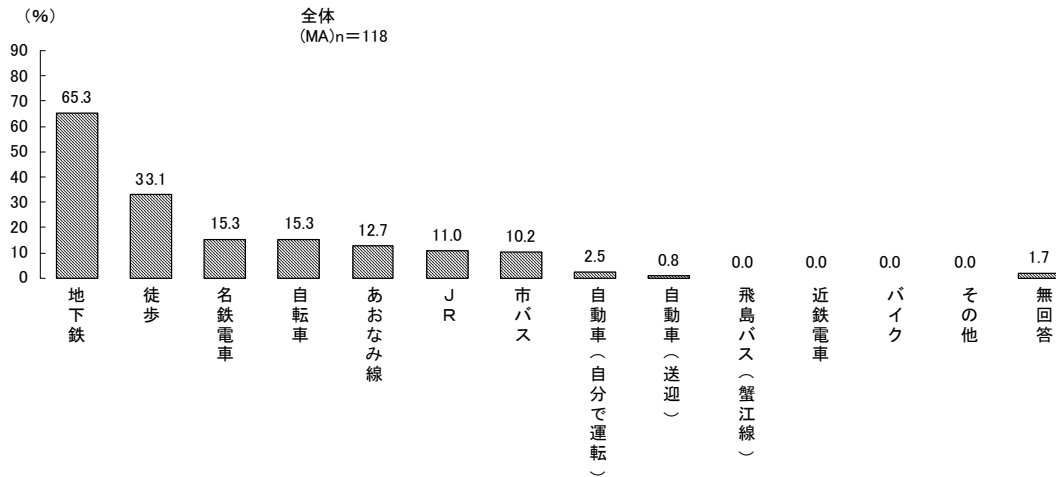


3. 行きのバスに乗車されるまでの移動手段と行きのバスから降車されてからの移動手段

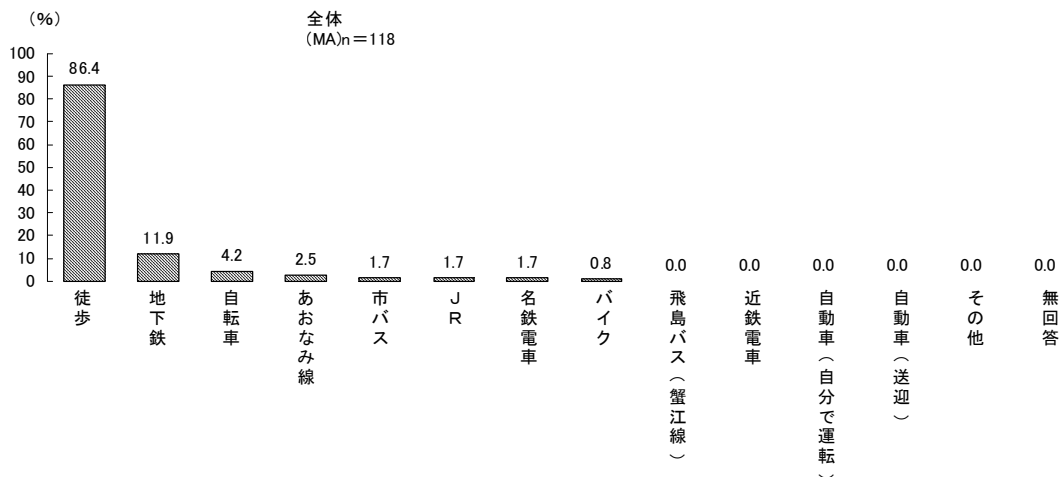
○ 行きのバスに乗車されるまでの移動手段としては「地下鉄」の65.3%と「徒歩」の33.1%の比率が高く、以下「名鉄電車」が15.3%、「自転車」が15.3%、「あおなみ線」が12.7%、「JR」が11.0%、「市バス」が10.2%となっています。

一方、行きのバスから降車されてからの移動手段としては、ほとんどの方が「徒歩」(86.4%)となっています。その他としては「地下鉄」が11.9%です。

図表2 行きのバスに乗車されるまでの移動手段



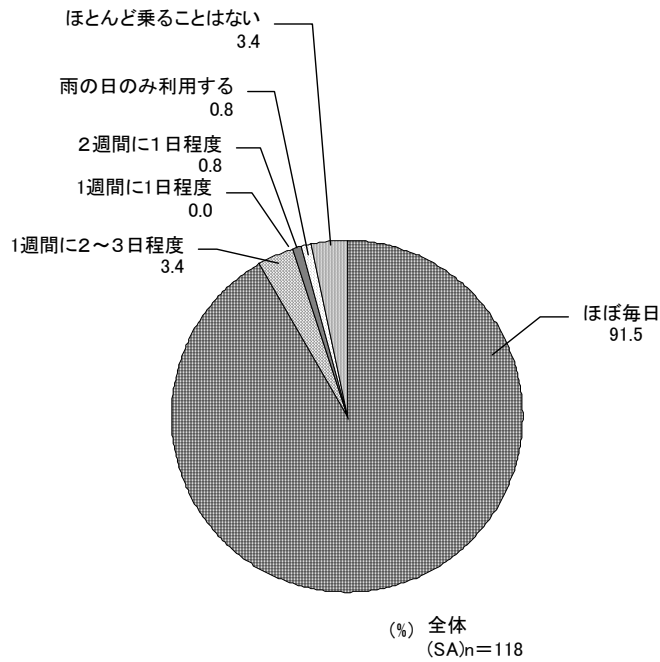
図表3 行きのバスから降車されてからの移動手段



4. 当該バスの利用頻度

○ 利用頻度としては「ほぼ毎日」が91.5%、「1週間に2～3日程度」が3.4%です。

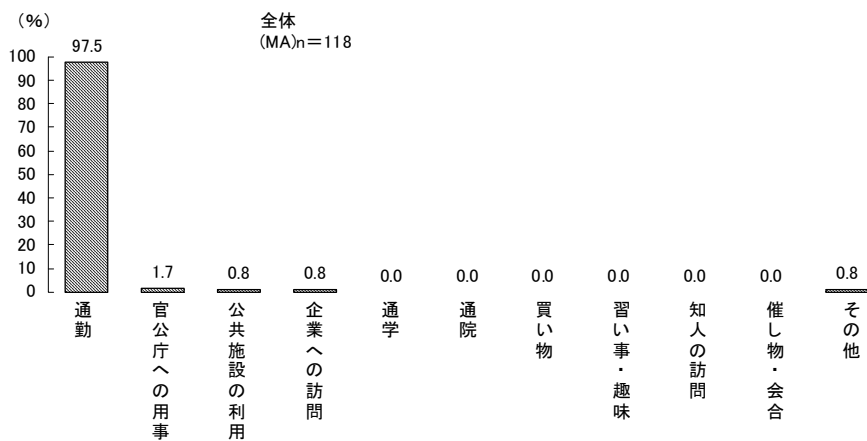
図表4 当該バスの利用頻度



5. 当該バスの利用目的

○ 利用目的としてはほとんどの方が「通勤」(97.5%)です。

図表5 当該バスの利用目的

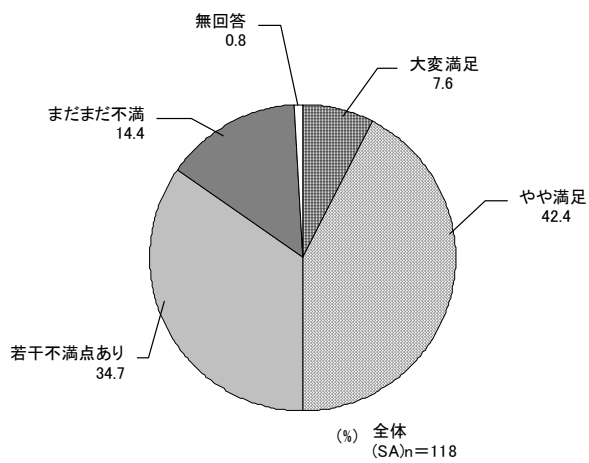


6. 当該バスの運行サービスの満足度

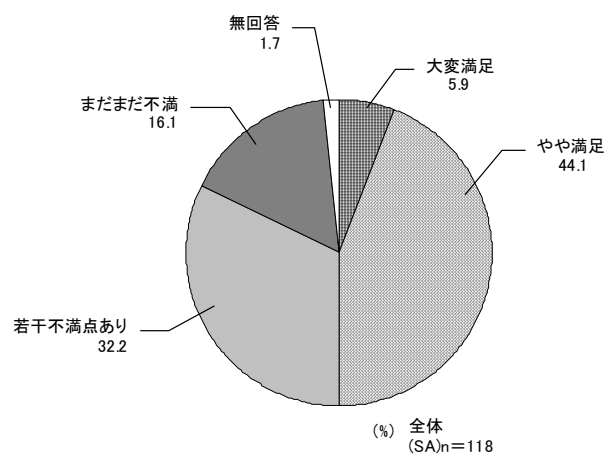
(1) 項目別満足度

- ①運行頻度の満足度については「満足」が50.0%（「大変満足」と「やや満足」の計）、「不満」が49.1%（「若干不満点あり」と「まだまだ不満」の計）です。【以下、同様】
- ②ルートの満足度については「満足」が50.0%、「不満」が48.3%です。
- ③バス停位置の満足度については「満足」が76.3%、「不満」が22.0%です。
- ④バス停待機施設の満足度については「満足」が39.9%、「不満」が59.3%です。

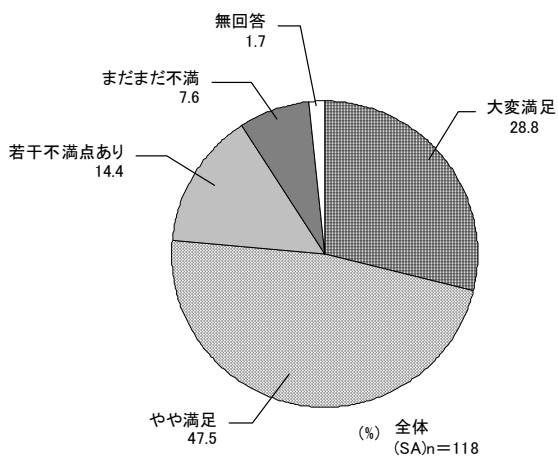
図表 6-1 ①運行頻度の満足度



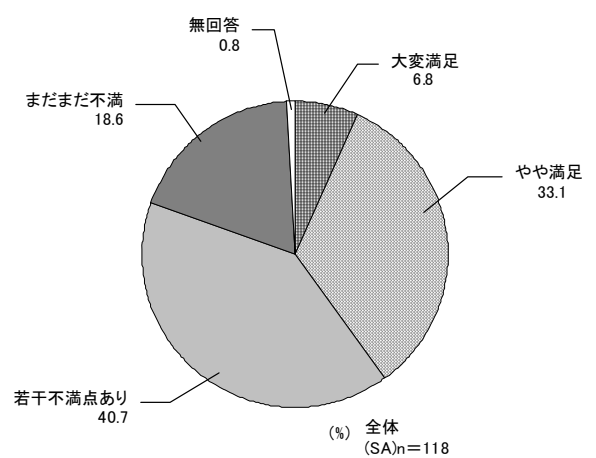
図表 6-2 ②ルートの満足度



図表 6-3 ③バス停位置の満足度



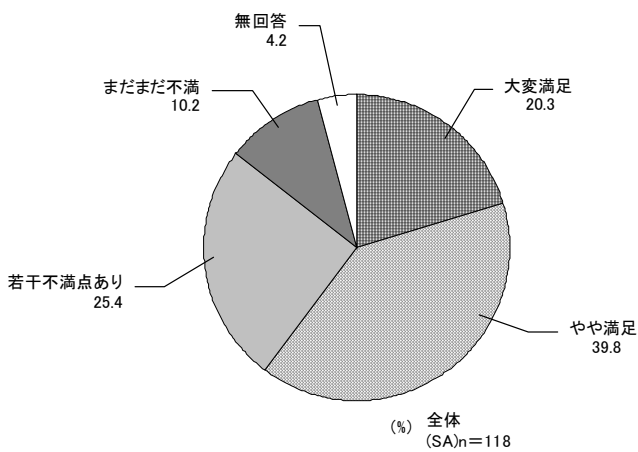
図表 6-4 ④バス停待機施設の満足度



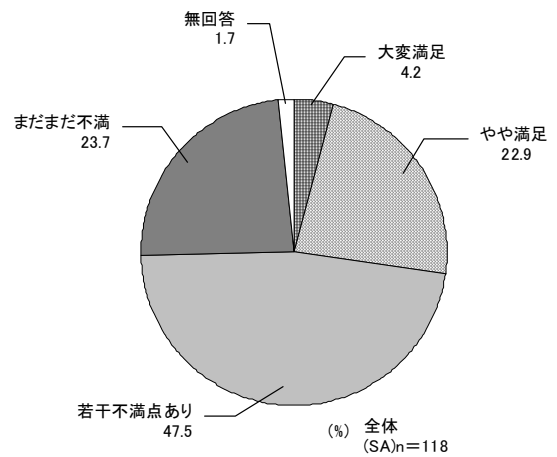
項目別満足度 続き

- ⑤定時性（遅れ）の満足度については「満足」が60.1%、「不満」が35.6%です。
- ⑥ダイヤ設定の満足度については「満足」が27.1%、「不満」が71.2%です。
- ⑦鉄道等との接続性の満足度については「満足」が63.5%、「不満」が29.7%です。
- ⑧運転手の対応の満足度については「満足」が82.3%、「不満」が15.2%です。

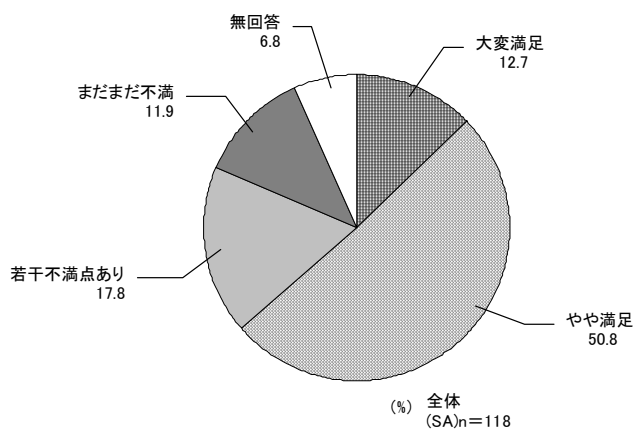
図表 6-5 ⑤定時性（遅れ）の満足度



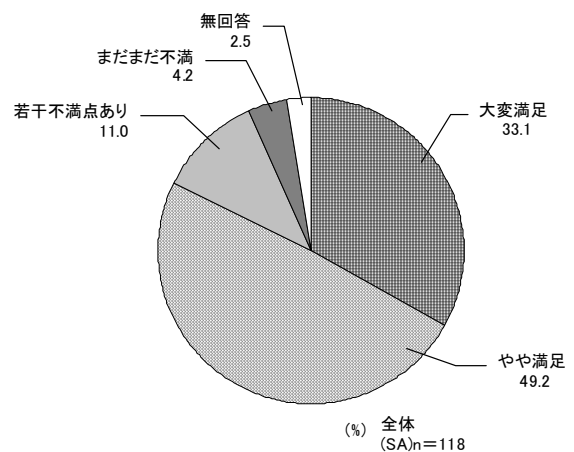
図表 6-6 ⑥ダイヤ設定の満足度



図表 6-7 ⑦鉄道等との接続性の満足度



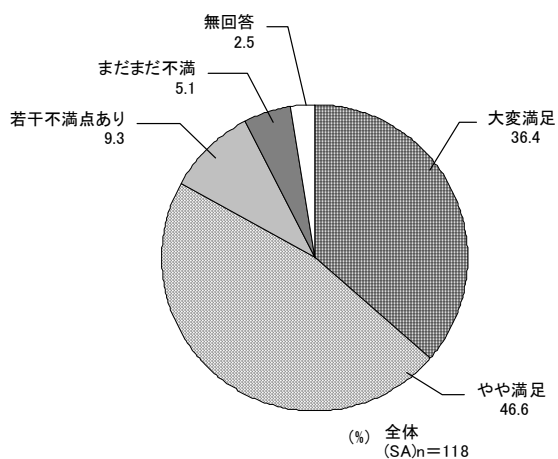
図表 8-8 ⑧運転手の対応の満足度



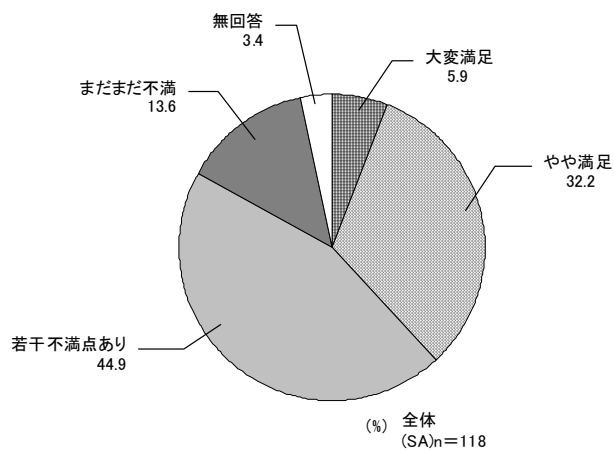
項目別満足度 続き

- ⑨車内の快適性の満足度については「満足」が83.0%、「不満」が14.4%です。
- ⑩運賃設定の満足度については「満足」が38.1%、「不満」が58.5%です。

図表6-9 ⑨車内の快適性の満足度



図表6-10 ⑩運賃設定の満足度

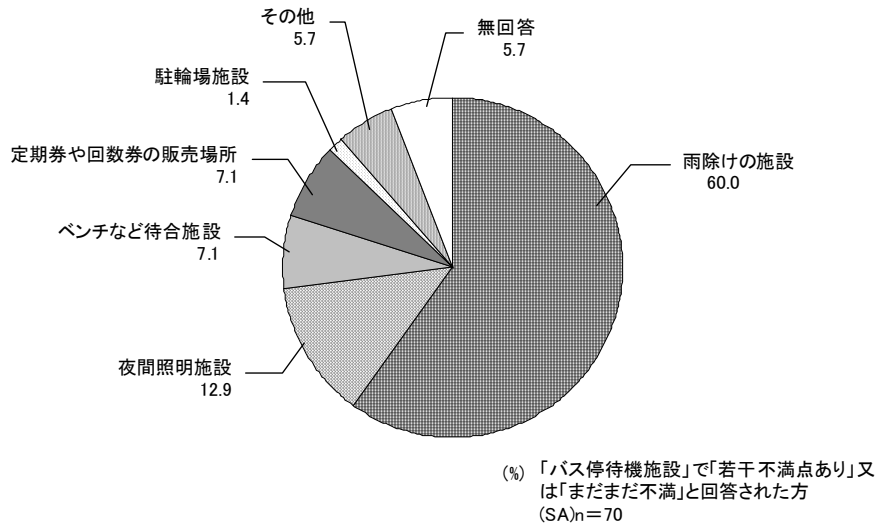


(2) 不足しているとおもわれる施設

「バス停待機施設」で「若干不満点あり」又は「まだまだ不満」と回答された方

- 不足しているとおもわれる施設については「雨除けの施設」が60.0%で最も高い。それ以外の施設については「夜間照明施設」が12.9%、「ベンチなど待合施設」が7.1%、「定期券や回数券の販売場所」が7.1%、「駐輪場施設」が1.4%となっています。

図表7 不足しているとおもわれる施設

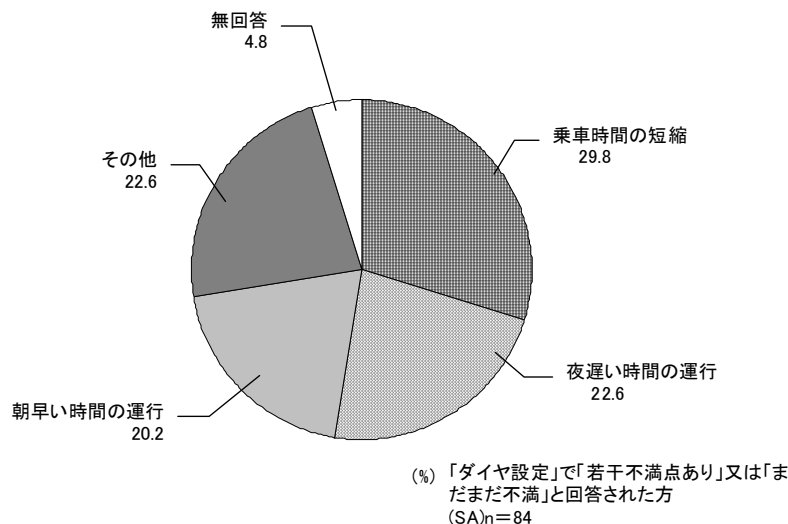


(3) 最も改善して欲しい点

「ダイヤ設定」で「若干不満点あり」又は「まだまだ不満」と回答された方

- 最も改善して欲しい点については「乗車時間の短縮」(29.8%)、「夜遅い時間の運行」(22.6%)、「朝早い時間の運行」(20.2%)に意見が分かれています。

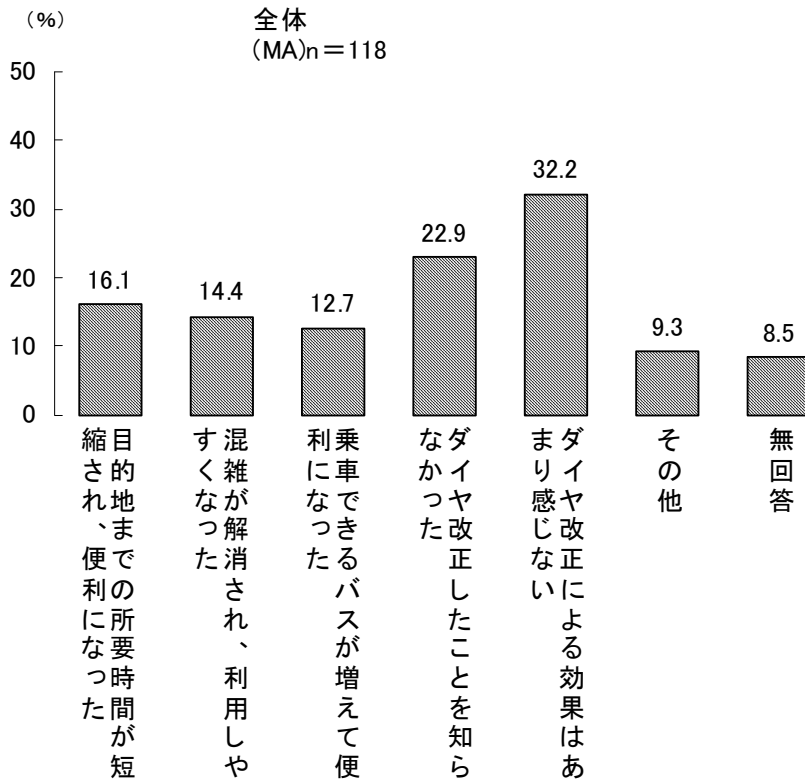
図表8 最も改善して欲しい点



(4) 夕方のダイヤ改正に伴う改正内容についての評価

○ 「ダイヤ改正したことを知らなかった」が 22.9%、「ダイヤ改正による効果はあまり感じない」が 32.2%となっています。夕方のダイヤ改正に伴う改正内容の評価については、「目的地までの所要時間が短縮され、便利になった」が 16.1%、「混雑が解消され、利用しやすくなった」が 14.4%、「乗車できるバスが増えて便利になった」が 12.7%です。

図表9 夕方のダイヤ改正に伴う改正内容についての評価

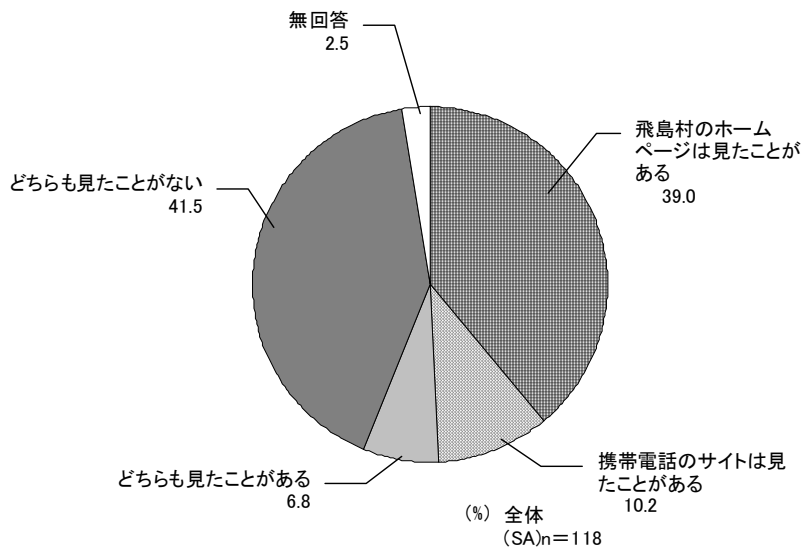


7. 運行内容におけるサービス向上について

(1) バス運行情報の発信方法について

- バス運行情報の発信方法については「飛島村のホームページは見たことがある」が 39.0%、「携帯電話のサイトは見たことがある」が 10.2%、「どちらも見たことがある」が 6.8%です（「飛島村のホームページは見たことがある」は 45.8%、「携帯電話のサイトは見たことがある」が 17.0%です）。一方、「どちらも見たことがない」が 41.5%です。

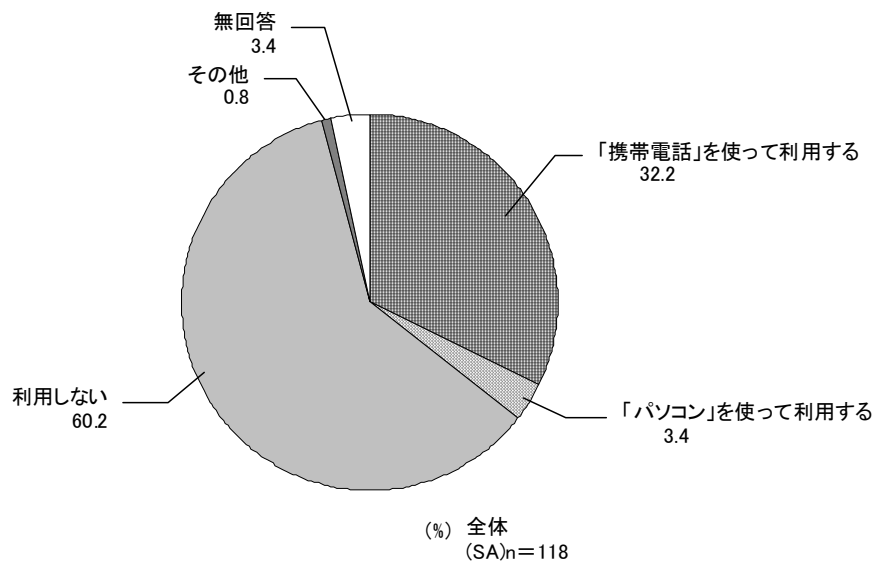
図表 10 バス運行情報の発信方法について



(2) 「バスロケーションシステム」を導入した場合の利用意向

- 「バスロケーションシステム」を導入した場合の利用意向については「携帯電話」を使って利用するが 32.2%、「パソコン」を使って利用するが 3.4%です。一方、「利用しない」は 60.2%です。

図表 11 「バスロケーションシステム」を導入した場合の利用意向



「飛島公共交通バス（蟹江線）の利用者アンケート調査」

調査結果概要版

平成22年11月

目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	
1 アンケート対象の属性	2
2 本日、利用されたバス停	6
3 本日、「公民館分館」での乗り継ぎの有無	7
4 行きのバスに乗車されるまでの移動手段と 行きのバスから降車されてからの移動手段	8
5 当該バスの利用頻度	9
6 当該バスの利用目的	9
7 当該バスの運行サービスの満足度	10
8 運行内容におけるサービス向上について	14
9 飛島コミュニティバスについて	15

I 調査の概要

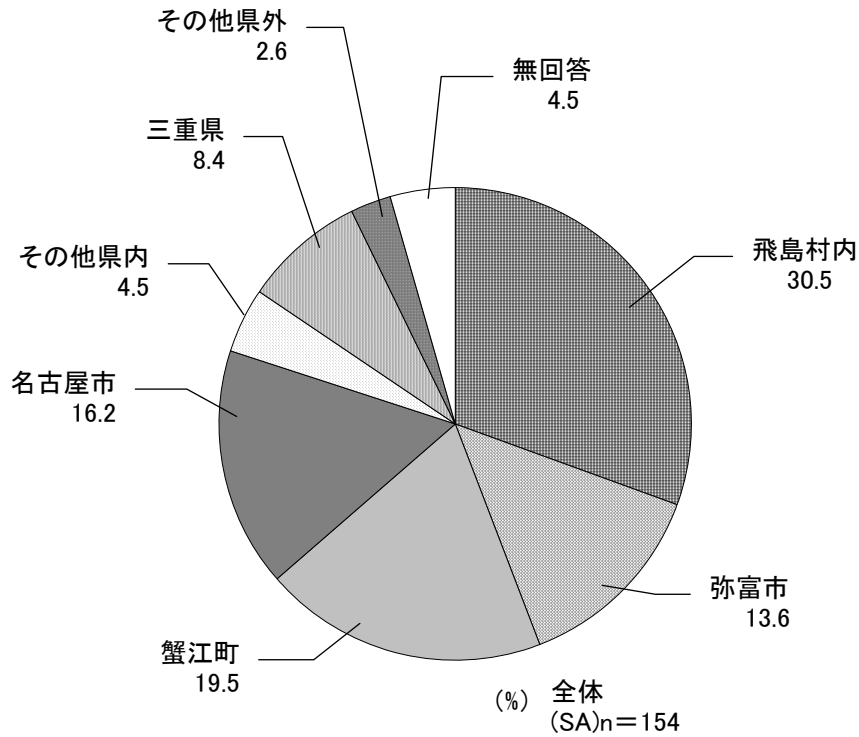
(1) 調査対象	飛島公共交通バス（蟹江線）の利用者
(2) 調査方法	配布調査
(3) 調査期間	平成22年10月1日（金曜日）、10月2日（土曜日）
(4) 標本数	合計 154人 内訳 10月1日（金曜日） 117人 10月2日（土曜日） 37人
(5) 調査実施主体	飛島村役場総務部企画課
(6) 調査機関	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

II 調査結果

1. アンケート対象の属性

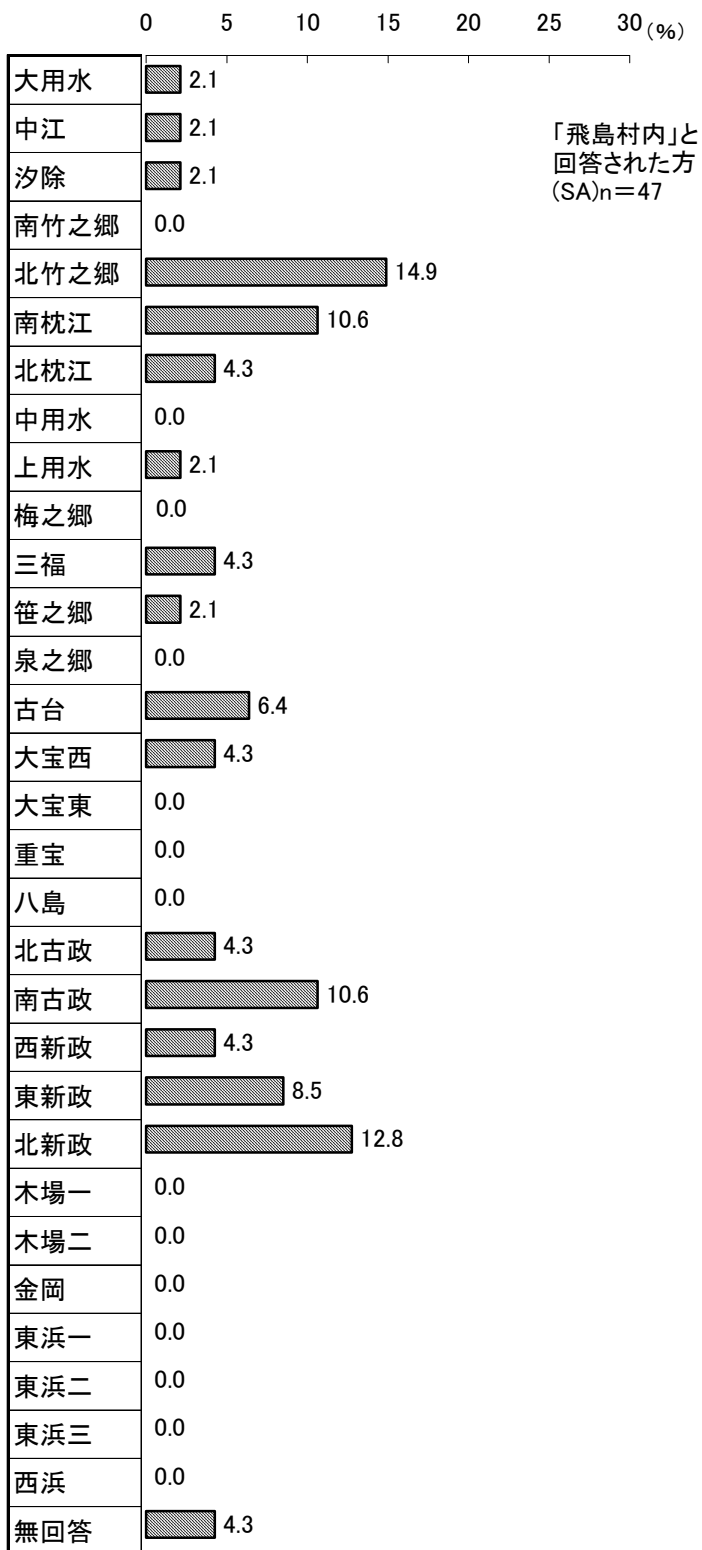
(1) お住まい

○ 「飛島村内」に居住されている方が30.5%、「弥富市」が13.6%、「蟹江町」が19.5%、「名古屋市」が16.2%、「その他県内」が4.5%、「三重県」が8.4%、「その他県外」が2.6%です。



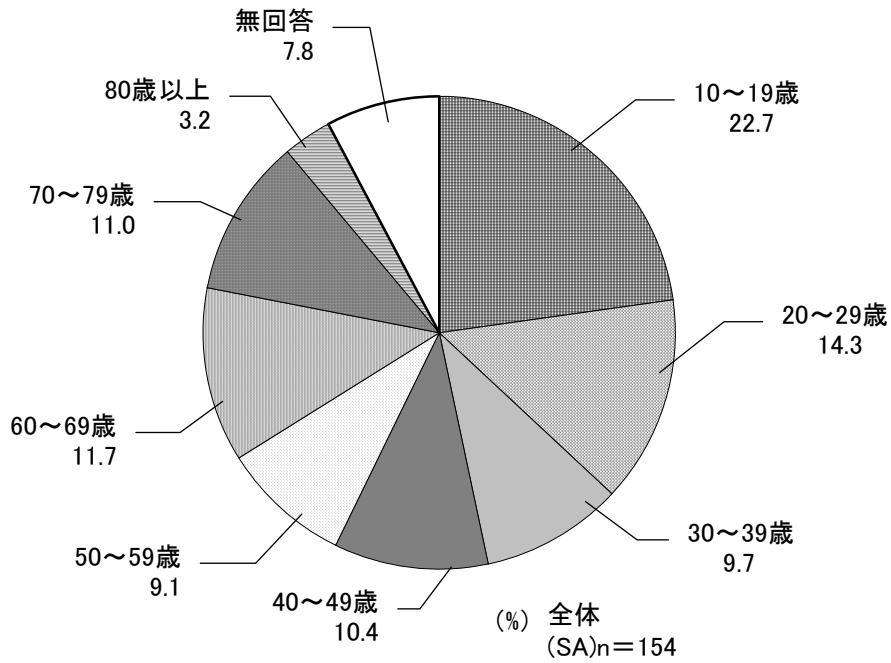
飛島村内居住者の地区名

○ 「北竹之郷」が14.9%、「北新政」が12.8%、「南枕江」と「南古政」が各10.6%で高くなっています。



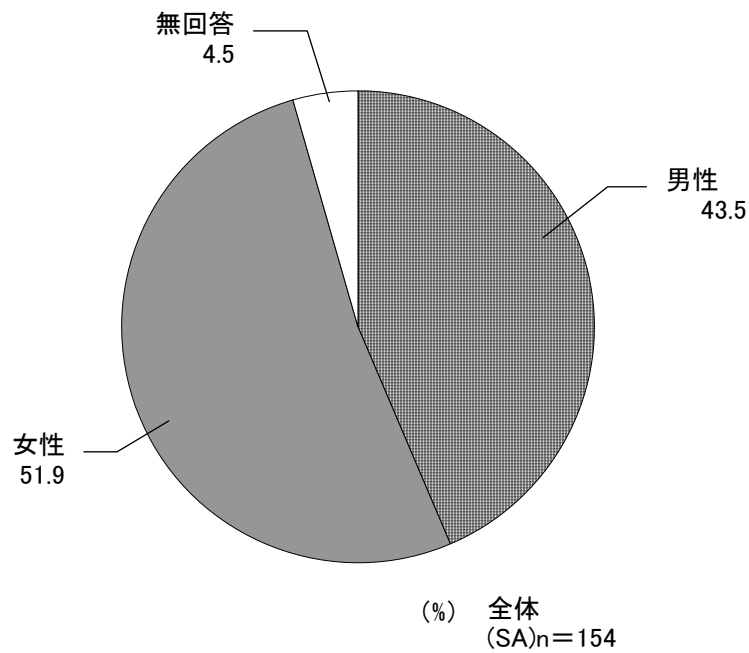
(2) 年齢

○ 「10歳台」が22.7%、「20歳台」が14.3%、「30歳台」が9.7%、「40歳台」が10.4%、「50歳台」が9.1%、「60歳台」が11.7%、「70歳台」が11.0%、「80歳以上」が3.2%です。



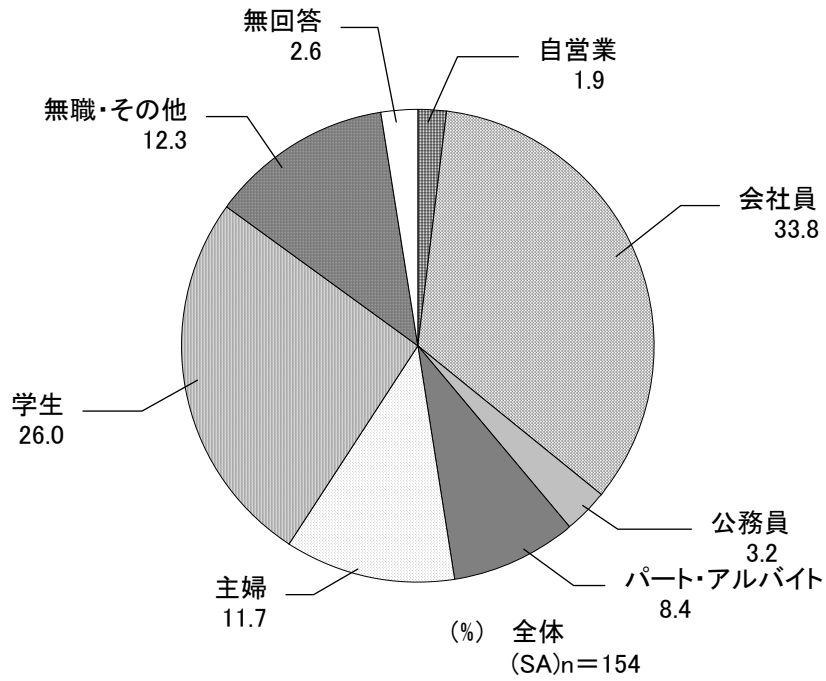
(3) 性別

○ 「男性」が43.5%、「女性」が51.9%です。



(4) 職業

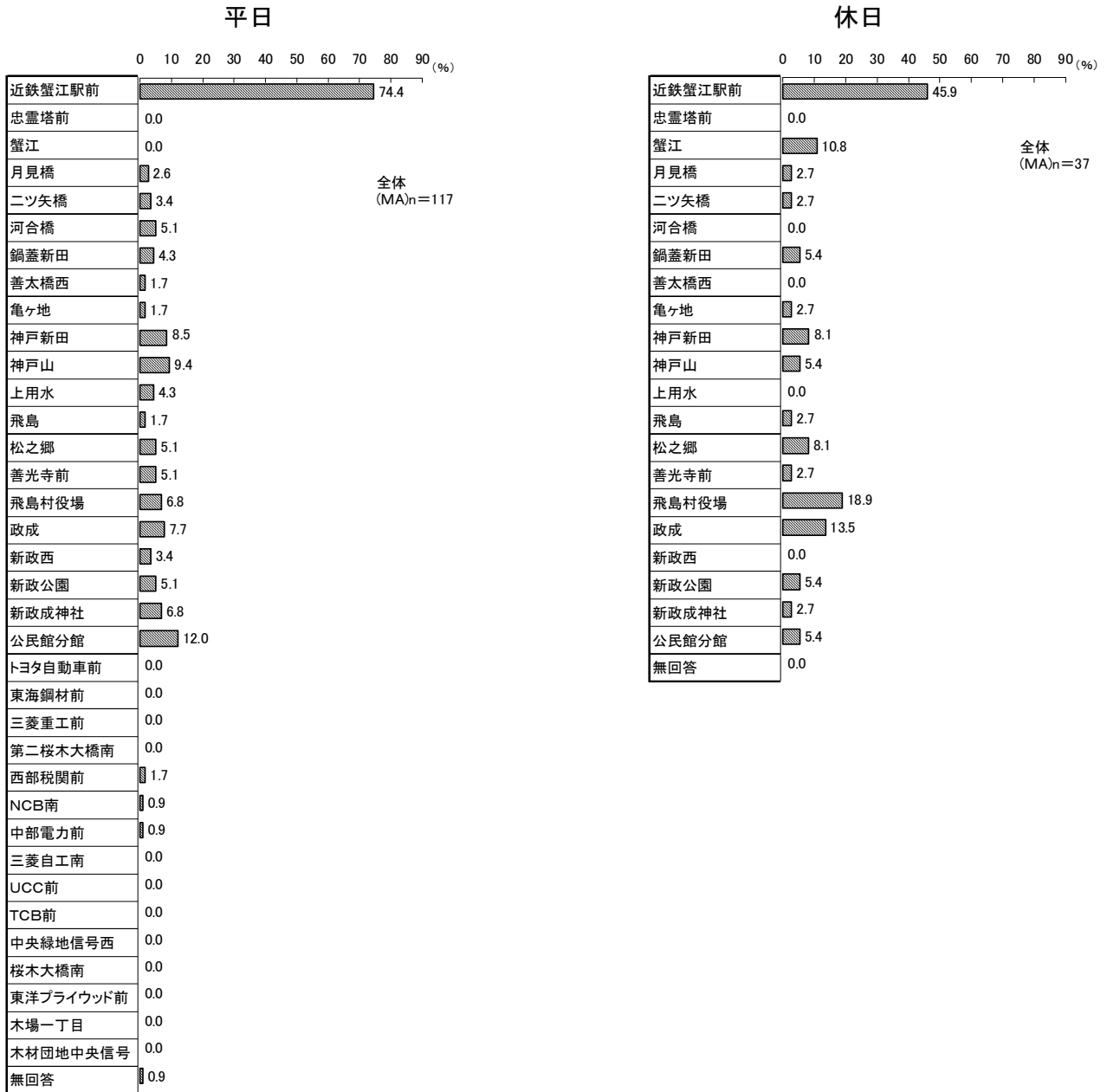
○ 「会社員」が 33.8%、「パート・アルバイト」が 8.4%、「主婦」が 11.7%、「学生」が 26.0%、「無職・その他」が 12.3%となっています。



2. 本日、利用されたバス停

○ 平日・休日とも「近鉄蟹江駅前」(平日 74.4%、休日 45.9%) が高くなっています。また、平日では「公民館分館」(12.0%)、「神戸山」(9.4%)、「神戸新田」(8.5%)、休日では「飛島村役場」(18.9%)、「政成」(13.5%) の比率も若干高くなっています。

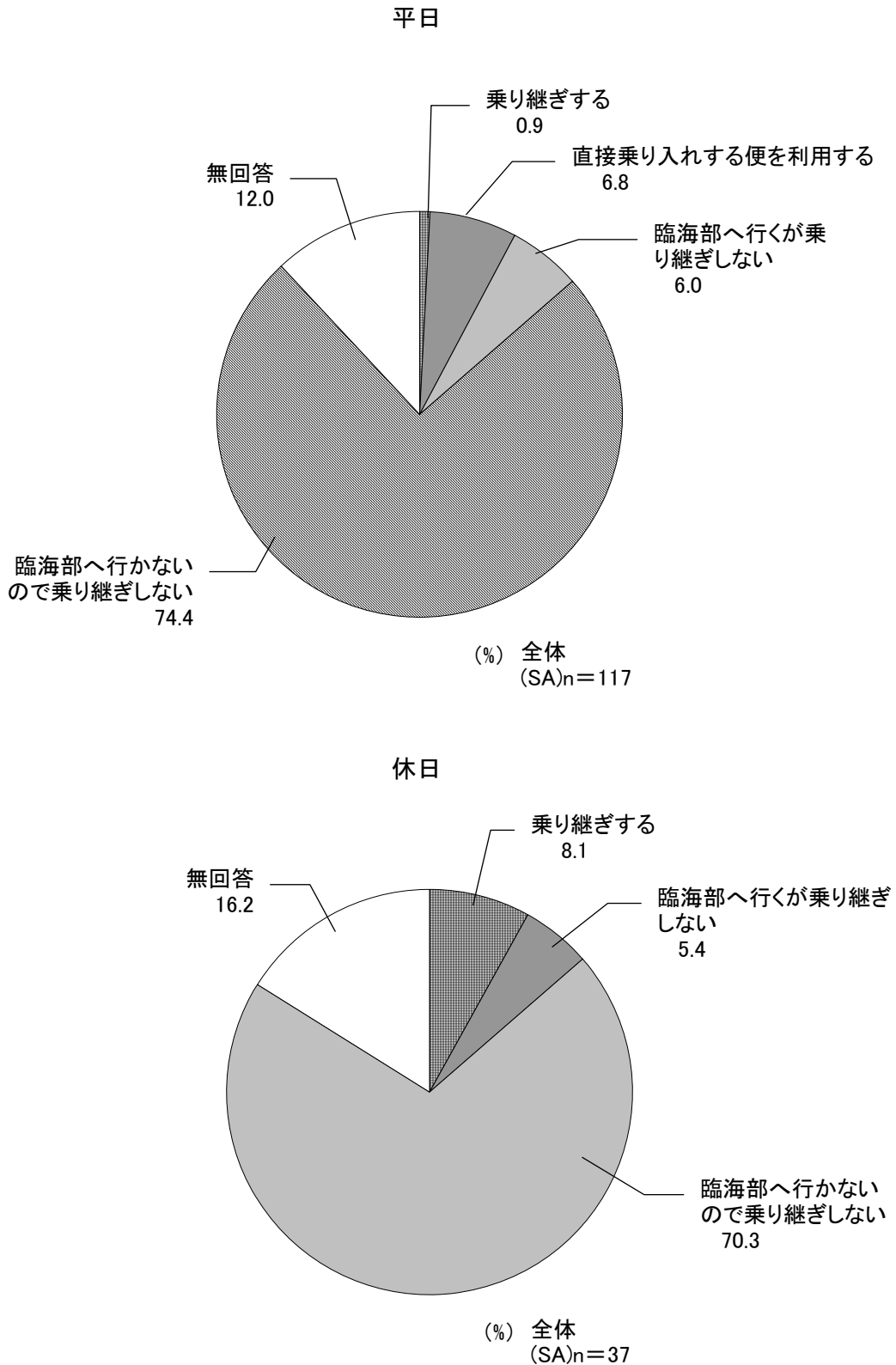
図表 1 本日、利用されたバス停 (平日・休日別)



3. 本日、「公民館分館」での乗り継ぎの有無

○ 平日では「公民館分館」で「乗り継ぎする」が0.9%です。「臨海部へ行くが乗り継ぎしない」が6.0%、「臨海部へ行かないので乗り継ぎしない」が74.4%です。
 休日では「公民館分館」で「乗り継ぎする」が8.1%、「臨海部へ行くが乗り継ぎしない」が5.4%、「臨海部へ行かないので乗り継ぎしない」が70.3%です。

図表2 「公民館分館」での乗り継ぎの有無（平日・休日別）

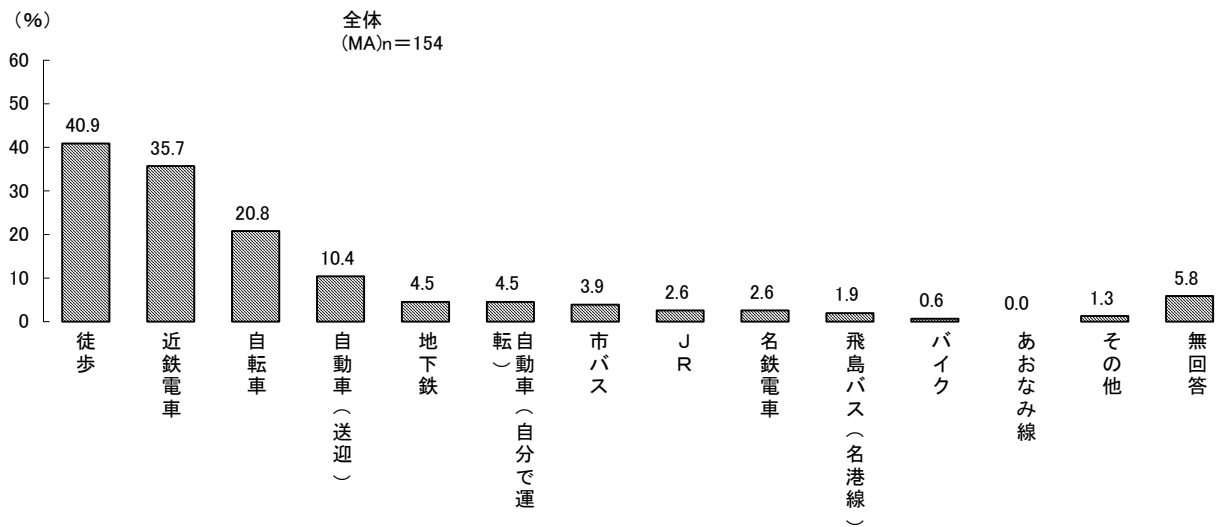


4. 行きのバスに乗車されるまでの移動手段と行きのバスから降車されてからの移動手段

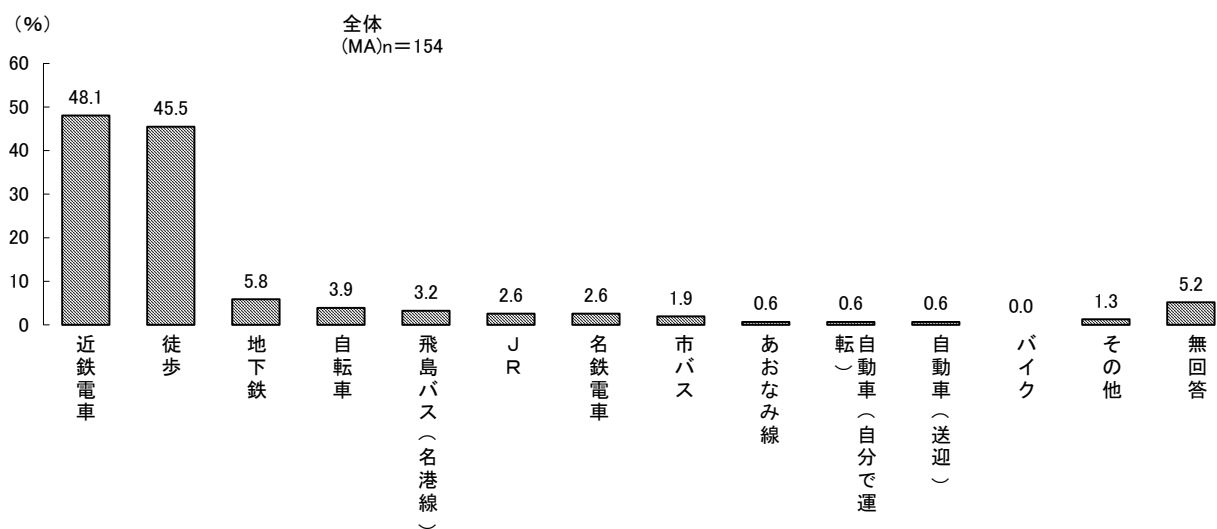
○ 行きのバスに乗車されるまでの移動手段としては「徒歩」が40.9%、「近鉄電車」が35.7%、「自転車」の20.8%の比率が高く、以下「自動車（送迎）」が10.4%、「地下鉄」と「自動車（自分で運転）」が各4.5%となっています。

一方、行きのバスから降車されてからの移動手段としては、「近鉄電車」（48.1%）と「徒歩」（45.5%）の比率が高くなっています。その他としては「地下鉄」（5.8%）、「自転車」「飛島バス（名港線）」が各3%台です。

図表3 行きのバスに乗車されるまでの移動手段



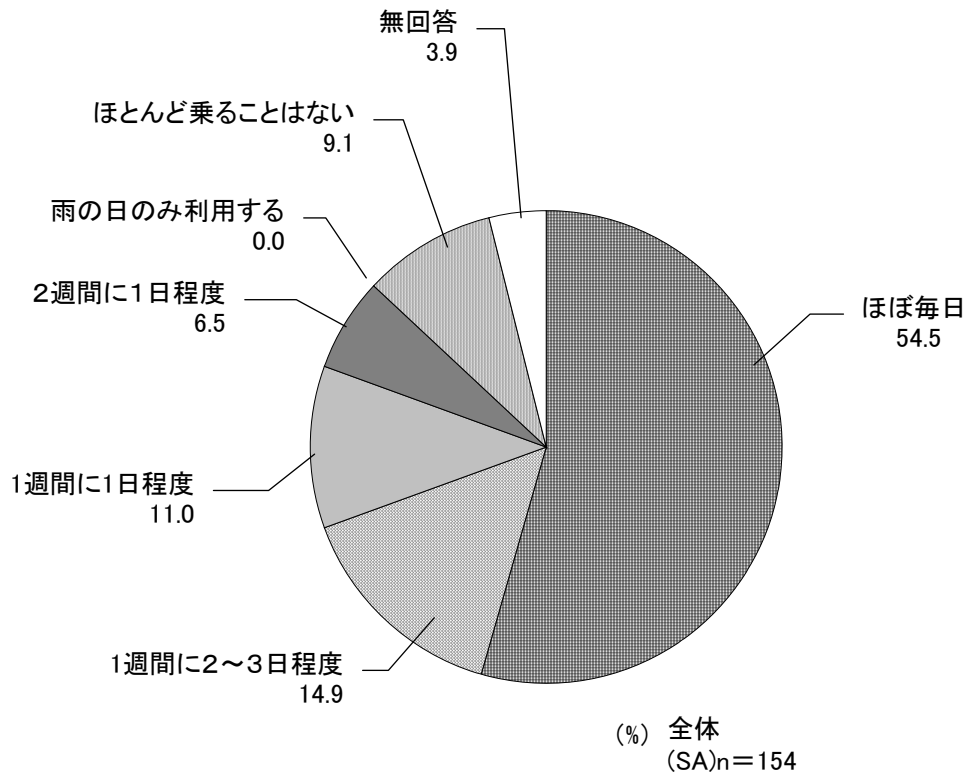
図表4 行きのバスから降車されてからの移動手段



5. 当該バスの利用頻度

○ 利用頻度としては「ほぼ毎日」が 54.5%で高くなっています。以下、「1週間に2～3日程度」が 14.9%、「1週間に1日程度」が 11.0%、「2週間に1日程度」が 6.5%です。

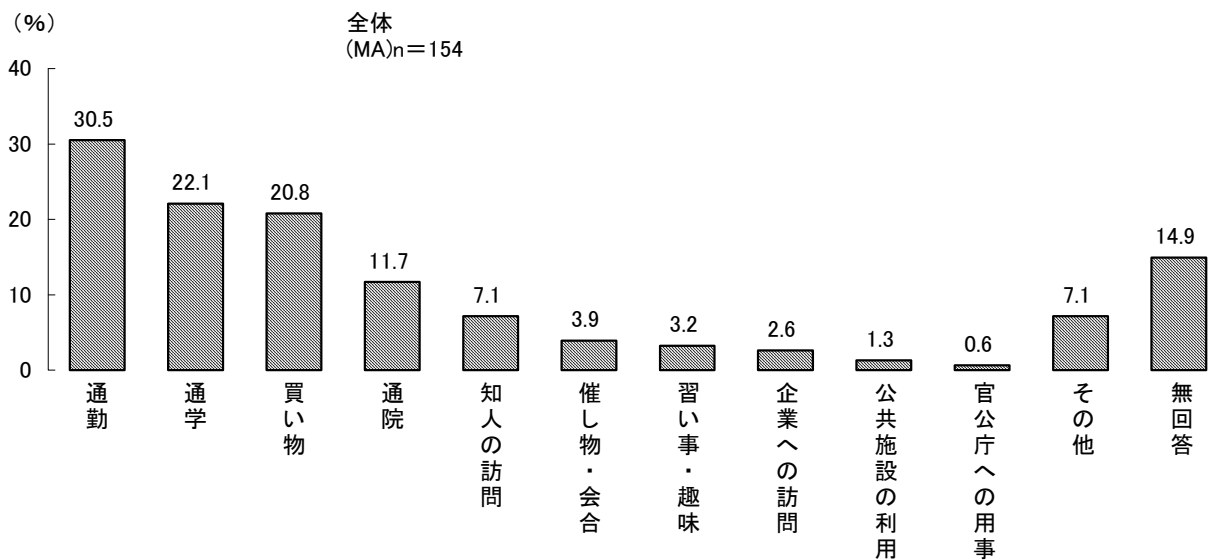
図表5 当該バスの利用頻度



6. 当該バスの利用目的

○ 利用目的を見ると、「通勤」(30.5%)、「通学」(22.1%)、「買い物」(20.8%)、「通院」(11.7%)が高くなっています。

図表6 当該バスの利用目的

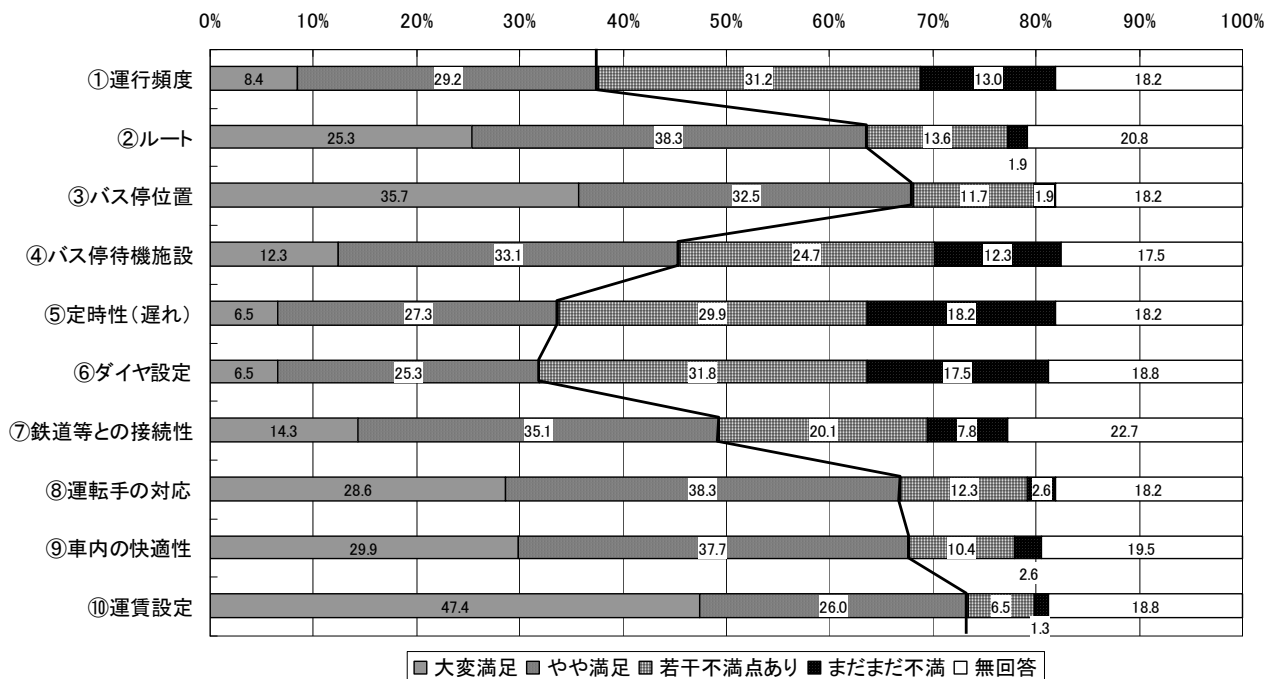


7. 当該バスの運行サービスの満足度

(1) 項目別満足度

- ①運行頻度の満足度については「満足」が37.6%（「大変満足」と「やや満足」の計）、「不満」が44.2%（「若干不満点あり」と「まだまだ不満」の計）です。【以下、同様】
- ②ルートについては「満足」が63.6%、「不満」が15.5%です。
- ③バス停位置については「満足」が68.2%、「不満」が13.6%です。
- ④バス停待機施設の満足度については「満足」が45.4%、「不満」が37.0%です。
- ⑤定時性（遅れ）の満足度については「満足」が33.8%、「不満」が48.1%です。
- ⑥ダイヤ設定の満足度については「満足」が31.8%、「不満」が49.3%です。
- ⑦鉄道等との接続性の満足度については「満足」が49.4%、「不満」が27.9%です。
- ⑧運転手の対応の満足度については「満足」が66.9%、「不満」が14.9%です。
- ⑨車内の快適性の満足度については「満足」が67.6%、「不満」が13.0%です。
- ⑩運賃設定の満足度については「満足」が73.4%、「不満」が7.8%です。

図表 8-9 ⑨車内の快適性の満足度

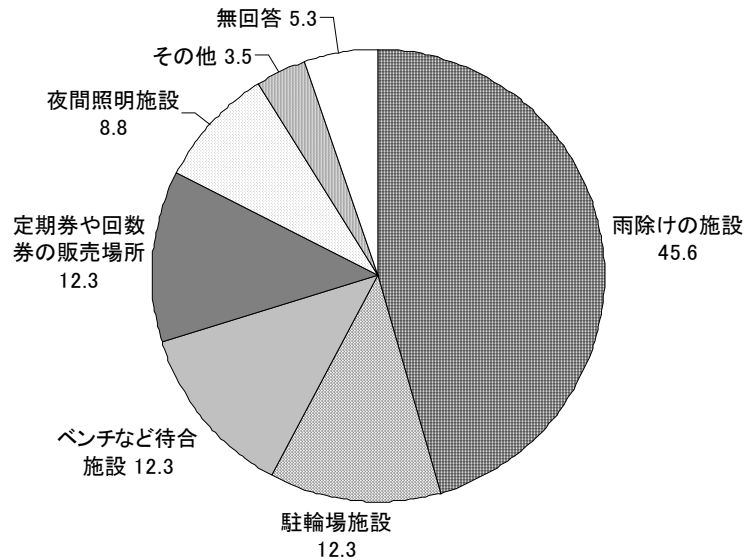


(2) 不足していると思われる施設

「バス停待機施設」で「若干不満点あり」又は「まだまだ不満」と回答された方

○ 「雨除けの施設」(45.6%)が不足しているとする方が最も多い。以下、「駐輪場施設」「ベンチなど待合施設」「定期券や回数券の販売場所」が各12.3%、「夜間照明施設」(8.8%)の順に改善して欲しいとしている。

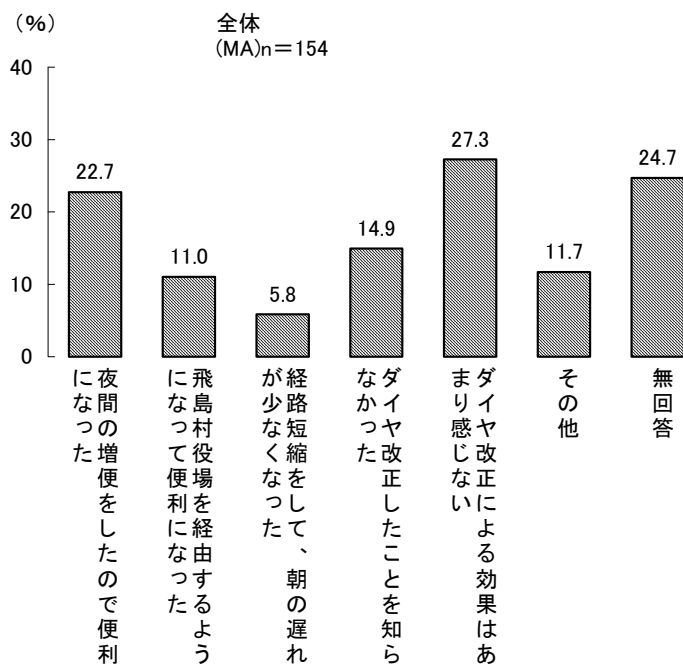
図表9 不足していると思われる施設



(3) 4月1日からのダイヤ改正に伴う改正後の運行についての評価

○ 「ダイヤ改正したことを知らなかった」が14.9%、「ダイヤ改正による効果はあまり感じない」が27.3%です。改正後の運行についての評価については「夜間の増便をしたので便利になった」(22.7%)、「飛島村役場を経由するようになって便利になった」(11.0%)、「経路短縮をして、朝の遅れが少なくなった」(5.8%)となっています。

図表10 4月1日からのダイヤ改正に伴う改正後の運行についての評価

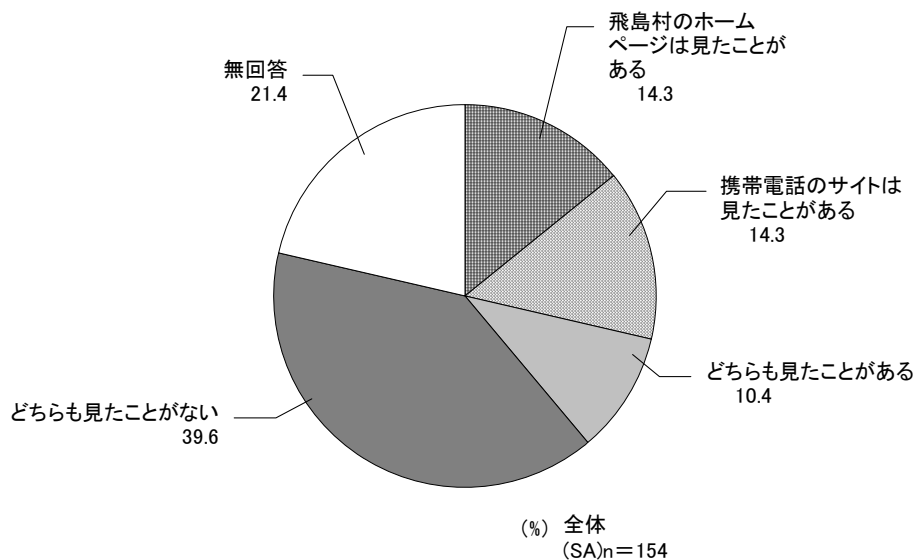


8. 運行内容におけるサービス向上について

(1) バス運行情報の発信方法について

○ バス運行情報の発信方法については「飛島村のホームページは見たことがある」「携帯電話のサイトは見たことがある」が共に14.3%、「どちらも見たことがある」は10.4%です。

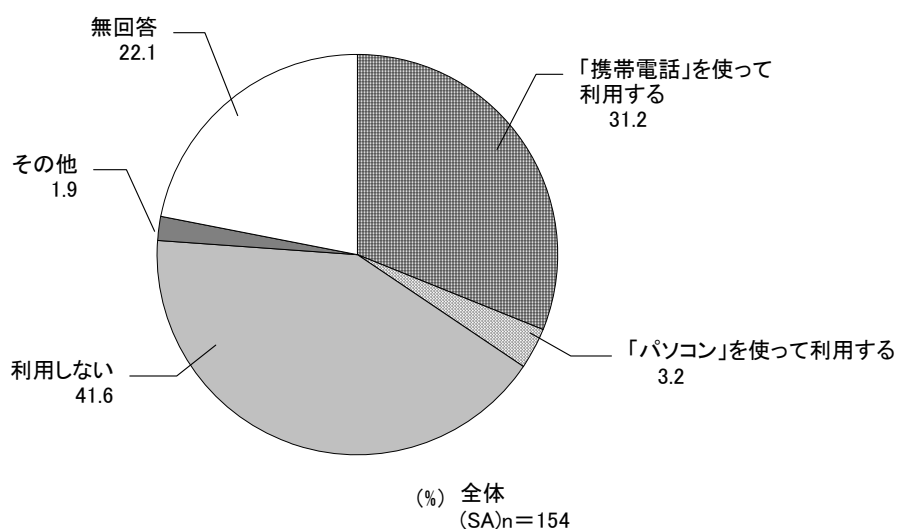
図表 11 バス運行情報の発信方法について



(2) 「バスロケーションシステム」を導入した場合の利用意向

○ 「バスロケーションシステム」を導入した場合の利用意向については「携帯電話」を使って利用するが31.2%、「パソコン」を使って利用するが3.2%です。一方、「利用しない」は41.6%です。

図表 12 「バスロケーションシステム」を導入した場合の利用意向

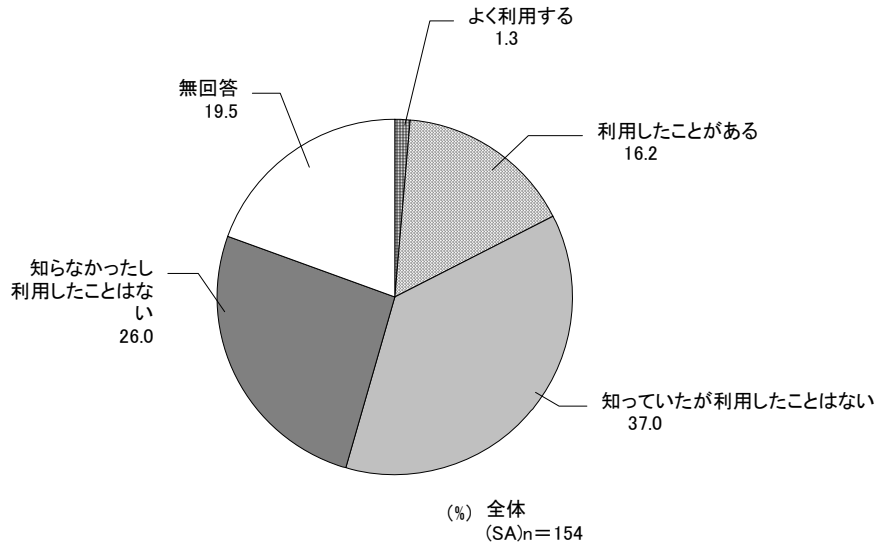


9. 飛島コミュニティバスについて

(1) 飛島コミュニティバス利用の有無

○ 「よく利用する」が 1.3%、「利用したことがある」は 16.2%です。一方、「知っていたが利用したことはない」が 37.0%、「知らなかったし利用したことはない」が 26.0%です。

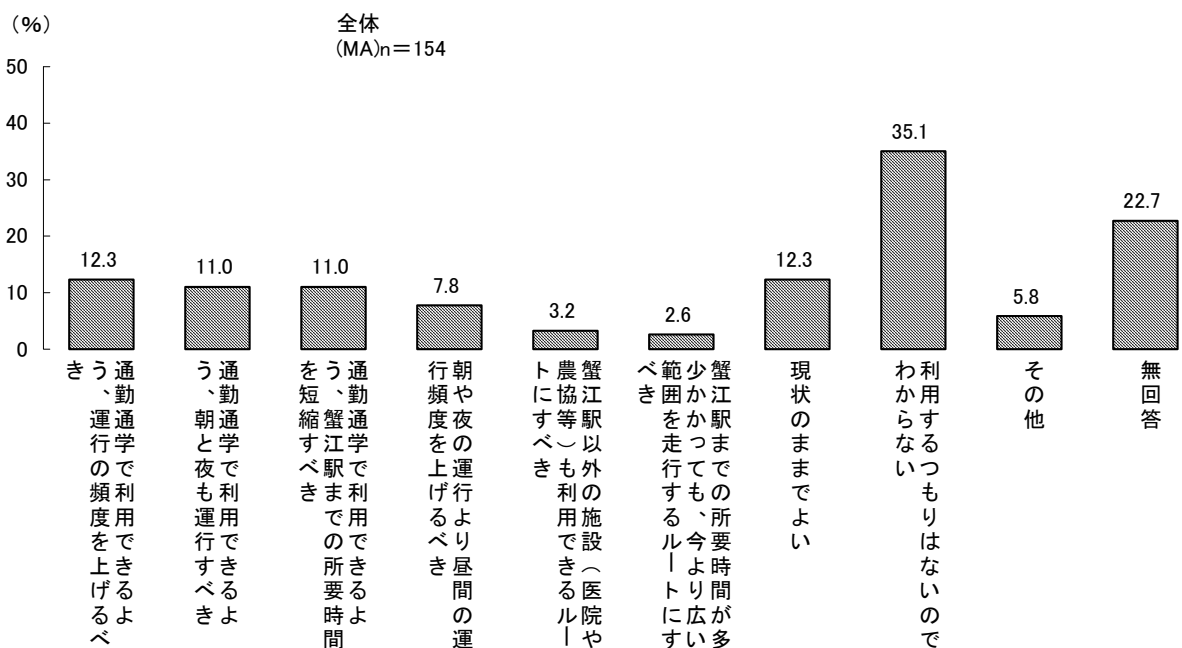
図表 13 飛島コミュニティバス利用の有無



(2) 飛島コミュニティバスのルートやダイヤ設定等の評価

○ 「通勤通学で利用できるよう、運行の頻度を上げるべき」が 12.3%、「通勤通学で利用できるよう、朝と夜も運行すべき」「通勤通学で利用できるよう、蟹江駅までの所要時間を短縮すべき」が各 11.0%、「朝や夜の運行より昼間の運行頻度を上げるべき」が 7.8%で、それぞれの評価が得られました。一方、「現状のままでよい」が 12.3%、「利用するつもりはないのでわからない」が 35.1%になっています。

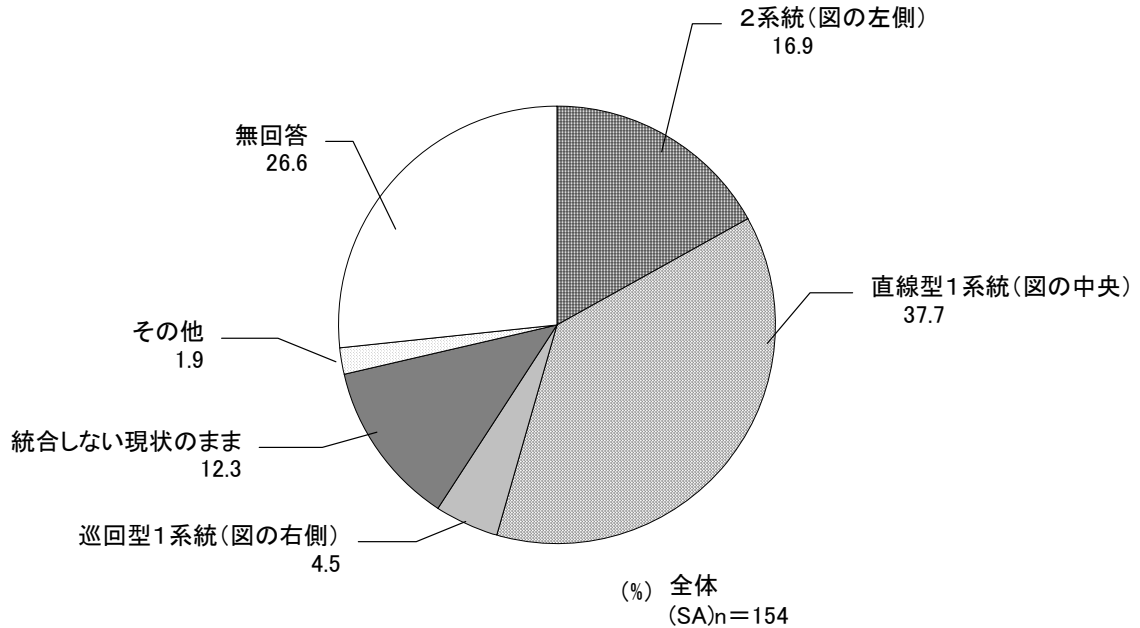
図表 14 飛島コミュニティバスのルートやダイヤ設定等の評価



(3) あなたの考えに近い運行イメージ

○ 考えに近い運行イメージとしては「直線型1系統（図の中央）」が37.7%で最も高く、「2系統（図の左側）」は16.9%、「巡回型1系統（図の右側）」が4.5%です。また、「統合しない現状のまま」が12.3%、「無回答」が26.6%となっています。

図表 15 あなたの考えに近い運行イメージ



タイプ	2系統	1系統(直線型)	1系統(巡回型)
運行イメージ	<p>近鉄蟹江駅</p> <p>複数のルートを往復運行</p> <p>飛島村</p>	<p>近鉄蟹江駅</p> <p>1つのルートを往復運行</p> <p>飛島村</p>	<p>近鉄蟹江駅</p> <p>1つのルートを往復運行 ただし、村内を広く巡回</p> <p>飛島村</p>
運行頻度	少ない	多い	中間
カバー範囲	広い	狭い	中間
蟹江駅までの時間	速い	速い	遅い

**飛島村のむらづくりに関する
住民・事業所アンケート調査結果
(バス関係部分)**

平成22年11月

1 住民向けアンケート調査

(1) 調査概要

対 象	飛島村にお住まいの 18 歳以上の方 1,300 人
調査手法	記入式・郵送回収
調査期間	2010 年 8 月 27 日 (金) ~9 月 20 日 (月)
回収数・回収率	622 票・47.8%
設 問	問 1 回答者自身について 問 2 普段の生活行動について 問 3 飛島村の印象・魅力について 問 4 行政サービスに対する満足度について 問 5 今後の行政サービスのあり方について 問 6 村内における交流活動について 問 7 飛島村の定住環境について 問 8 地域交通 (飛島バスほか) について

○報告書の見方

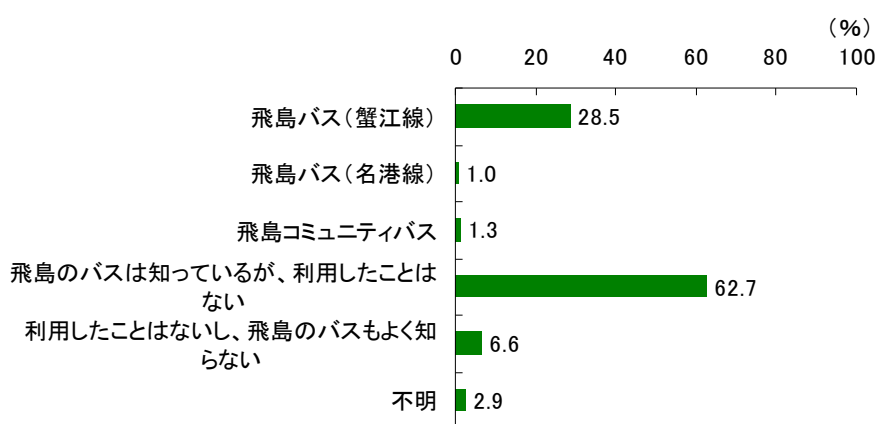
- ・ 本報告書の表、グラフ等の見出しおよび文書中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。

(2) 集計結果

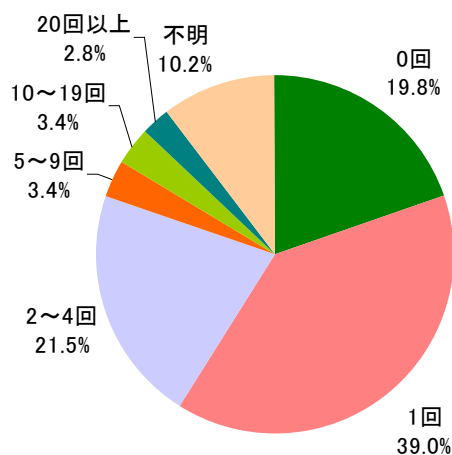
問8. 地域交通（飛島バスほか）について、おたずねします。

⑬飛島村では、住民の生活の足を確保するために、複数の路線バスを運行しています。あなたが利用したことのある飛島のバスについて、その番号を全て選んで○印をつけてください。また、その利用する頻度について、回数をご記入ください。

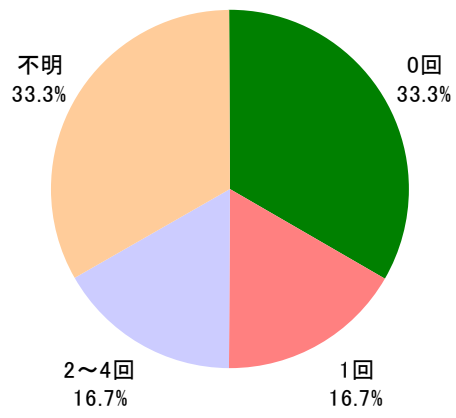
- 「知っているが利用したことはない」人が約6割存在する。
- 利用されるバスは、「飛島バス（蟹江線）」が最も多い（約3割）。
- 村内を通過する「飛島コミュニティバス」の利用は1%程度となっている。



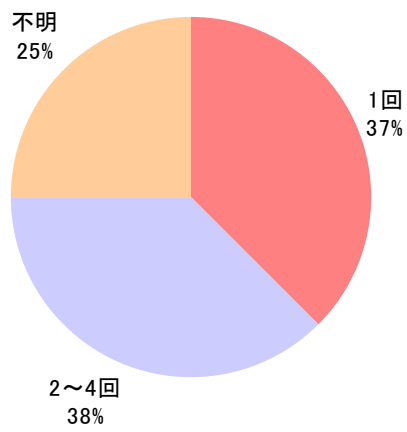
月に飛島バス（蟹江線）を利用する頻度



月に飛島バス（名港線）を利用する頻度



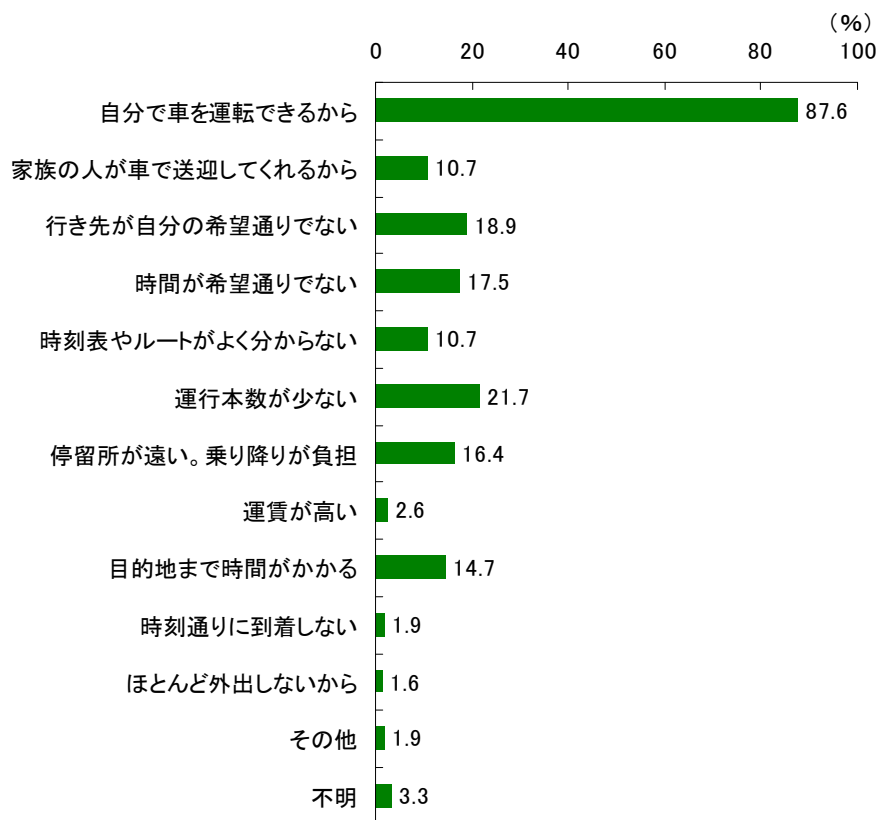
月に飛島コミュニティバスを利用する頻度



○利用しない理由としては、「自分で車を運転できるから」が約9割と最も多い。

その他理由としては、「運行本数が少ない（22%）」「行き先が希望通りでない（19%）」「時間が希望通りでない（18%）」「停留所が遠い・乗り降りが負担（16%）」「目的地まで時間がかかる（15%）」が指摘されているが、選択肢間の抽出割合にはあまり差がない。

※「飛島のバスは知っているが、利用したことはない」又は「利用したことはないし、飛島のバスもよく知らない」と回答された方は、利用しない理由の全てに○印をつけてください。

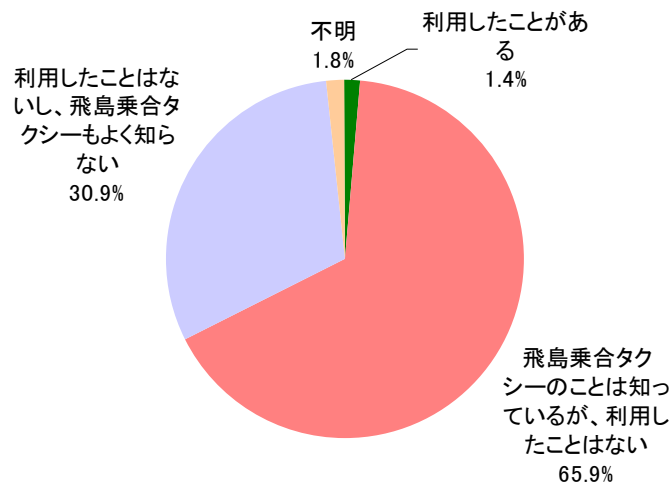


⑭昨年10月からは、海南病院へ通院される方を支援するため、「飛島乗合タクシー」の運行を開始しました。あなたは、「飛島乗合タクシー」を利用したことはありますか。

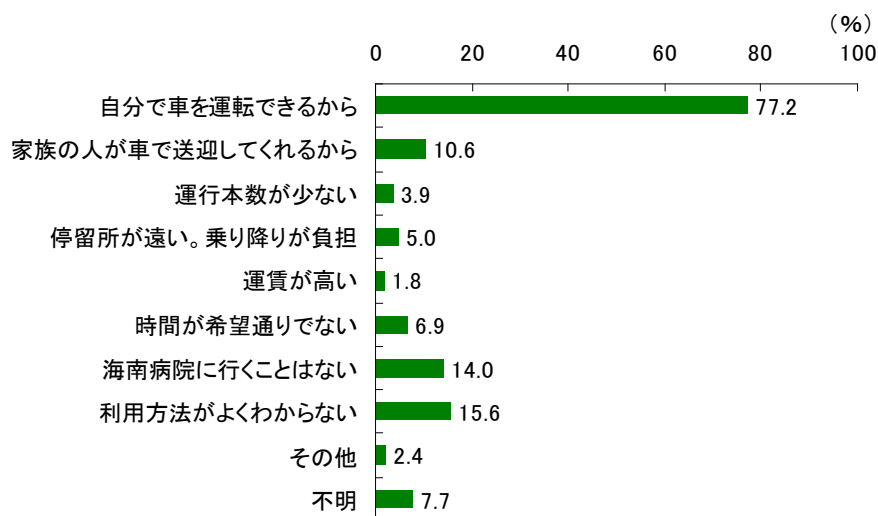
○利用したことがある割合は約1%であり、飛島コミュニティバスの利用割合と変わらない。

利用しない理由としては、「自分で車を運転できるから」が最も多い。

「よく知らない人」が31%存在しており、また、「利用方法がよくわからない」との回答が16%認められた。認知面について課題がある。試乗会やお試し券などで利用してもらい、利便性が体感されれば、利用者数が増える可能性は高いものと思われる。

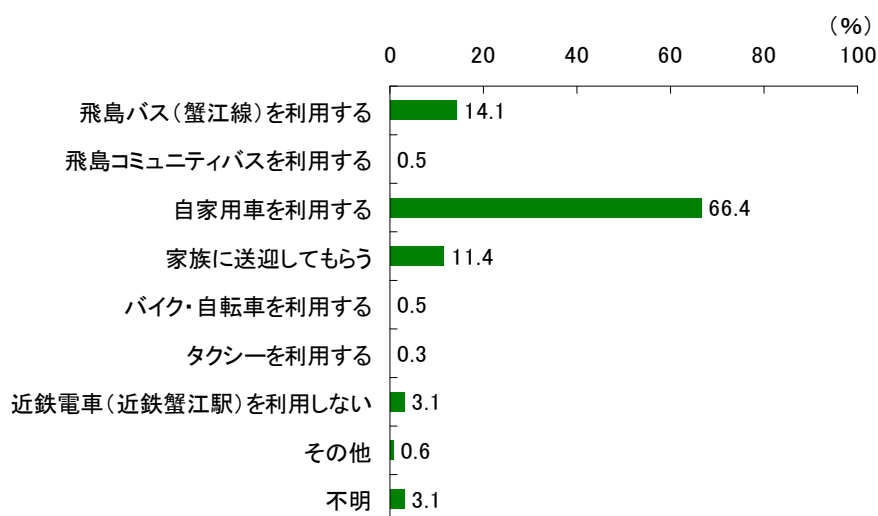


※「飛島乗合タクシーのことは知っているが、利用したことはない」又は「利用したことはないし、飛島乗合タクシーもよく知らない」と回答された方は、利用しない理由の全てに○印をつけてください。

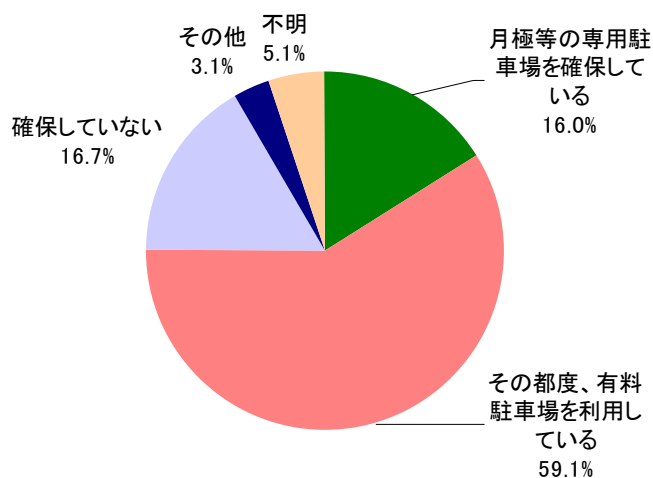


⑮あなたが近鉄電車（近鉄蟹江駅）を利用する時、近鉄蟹江駅までは、どのような交通手段を利用しますか。主に利用する交通手段についてその番号を1つ選んで○印をつけてください。

○近鉄蟹江駅までの移動手段としては、「自家用車を利用する」が約7割と最も多いが、次いで「飛島バス（蟹江線）（約14%）」が利用されている。
 自家用車の利用者も、「その都度、有料駐車場を利用」しており、駐車料金や自動車の維持管理費等の経費負担感と、飛島バスの利便性についての認識がより高まれば、飛島バスの利用拡大が進むものと思われる。



※「自家用車を利用する」と回答された方は、近鉄蟹江駅周辺に駐車場を確保していますか？

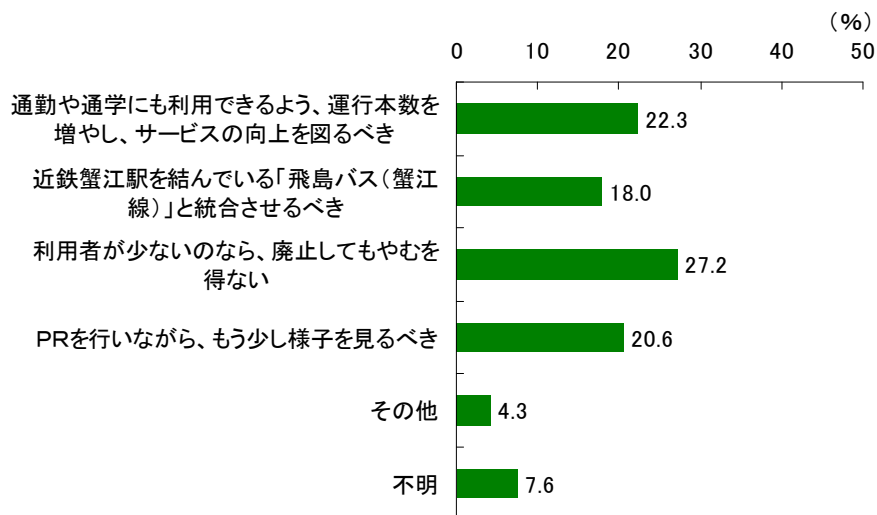


⑩「飛島コミュニティバス」は、昨年4月から村内を巡回する4つのルートで運行を開始しましたが、利用者が少なかったため、今年4月から梅之郷や大宝地区などを経由して、直接近鉄蟹江駅に接続するルートに変更しました。

今後も利用状況などを踏まえ、何らかの改善が必要と考えています。この点について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○印をつけてください。

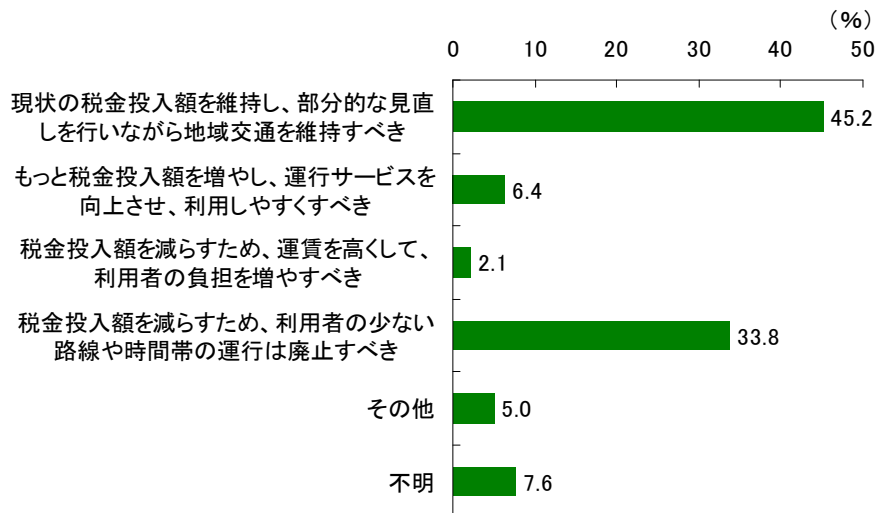
○サービス向上や蟹江線との統合など「事業改善を求める人」は全体の約4割で、「廃止してもやむを得ない」との回答者（約3割）を上回っている。

「もう少し様子を見るべき」人も約2割存在しており、サービス改善を図り事業継続を模索することに対して、一定の理解が得られるものと思われる。

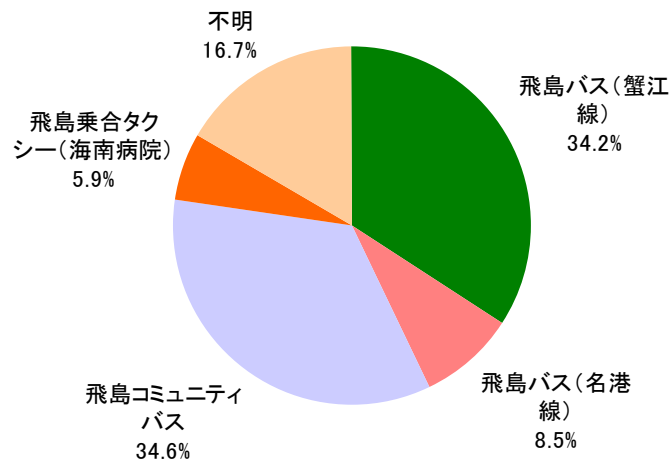


⑩ 「飛島バス」や「飛島コミュニティバス」、「飛島乗合タクシー」の運行費用は、飛島村の税金と運賃などによって賄^{まかな}われています。これまでも、利用しやすい公共交通を目指し様々な改善を行ってきましたが、大幅な改善をすることで、運行費の負担が増えることも考えられます。今後の対応について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○印をつけてください。

○「税金投入額を減らし、無駄な運行は廃止すべき」との回答（約 34%）よりも、「税金投入額を維持し、部分見直しにより維持すべき」との回答（約 45%）が上回っている。サービス改善を図り事業継続を模索することについて、特に蟹江線とコミュニティバスに対してその意向が強い。

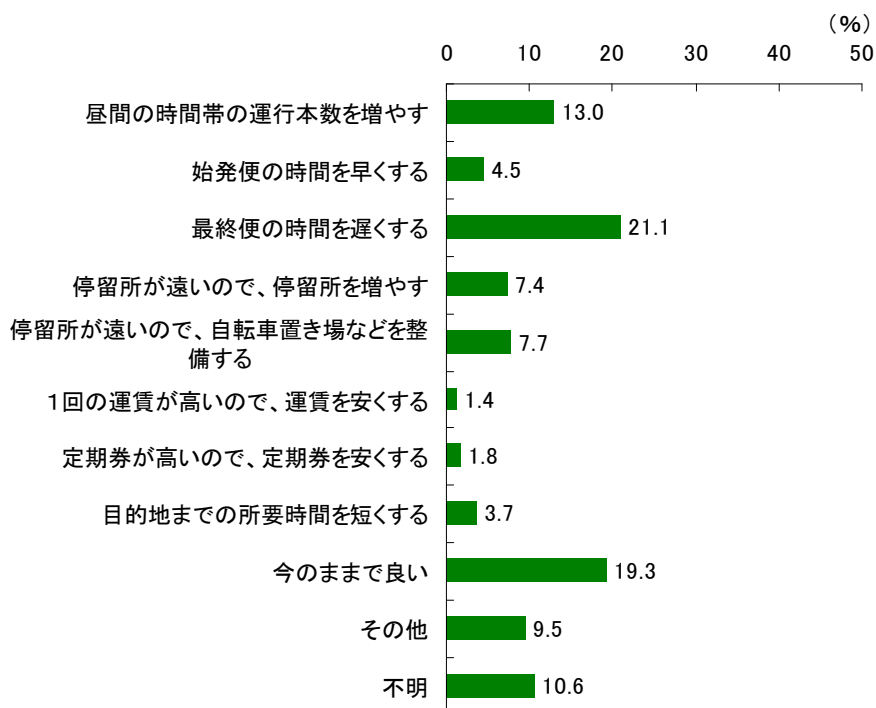


⑩問⑩で、特にそのように思った路線・ルートは、次の内のどれですか。あてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけてください。



⑱「飛島バス（蟹江線）」は、昨年実施したアンケート結果をもとに、今年の4月から平日や休日の最終便や役場経由の便を増便しましたが、これからも皆様にご利用いただくための改善が必要と考えています。あなたが「飛島バス（蟹江線）」を利用するためには、今後どのような改善が必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○印をつけてください。

○「今のままで良い」とする意見は約19%に留まり、改善に対する要望は強い。
 最も多い改善要望としては、「最終便の時間を遅くする（約21%）」で、次いで「昼間帯の運行本数を増やす（13%）」が選択された。



(3) 参考データ

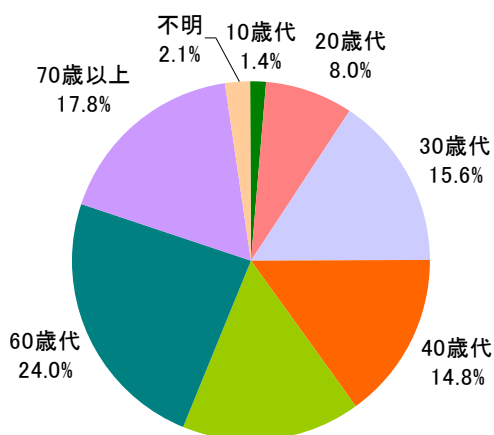
問1. まず、あなた自身について、おたずねします。

①お住まいはどちらですか。(1つに○)

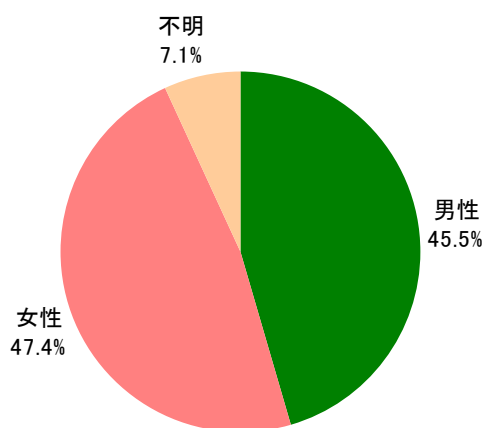


②年齢、性別、職業、家族構成をご記入下さい。((4) 以外はそれぞれ1つに○)

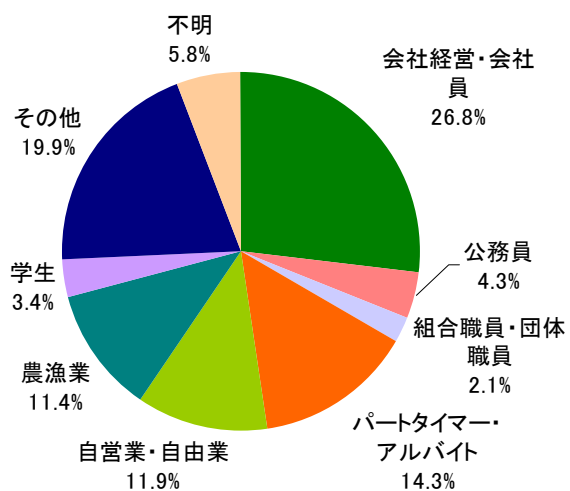
(1) 年齢



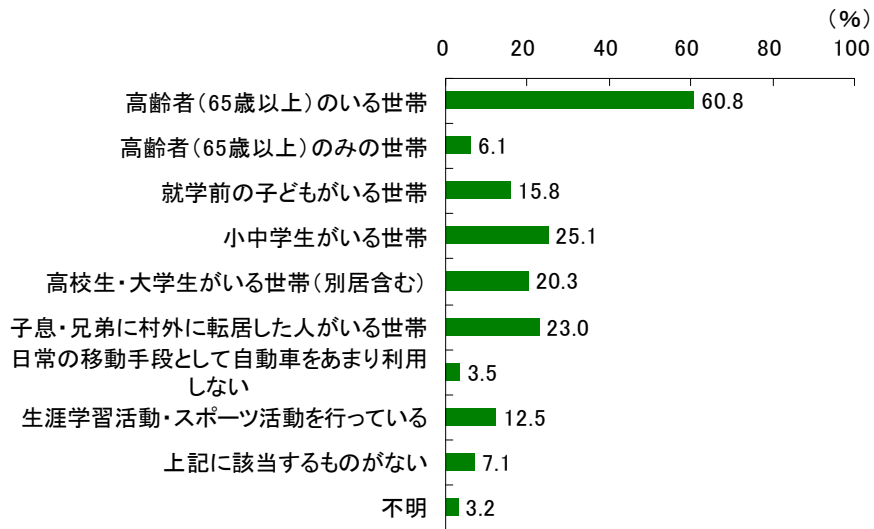
(2) 性別



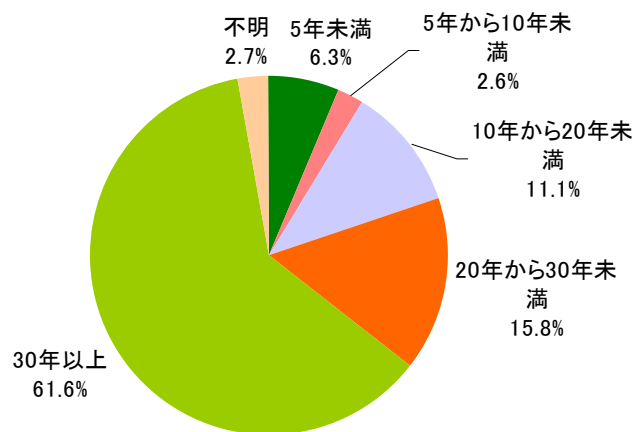
(3) 職業



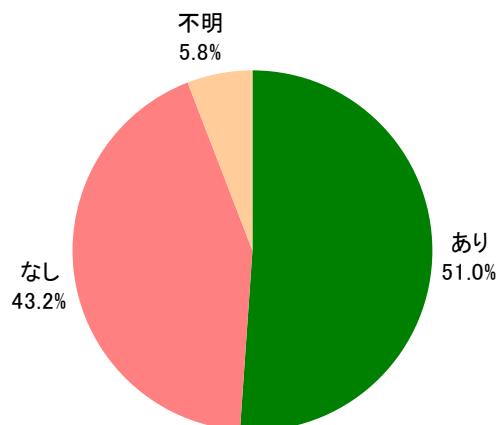
(4) 家族構成・個人属性 (該当するものすべてに○)



(5) 村内での居住年数



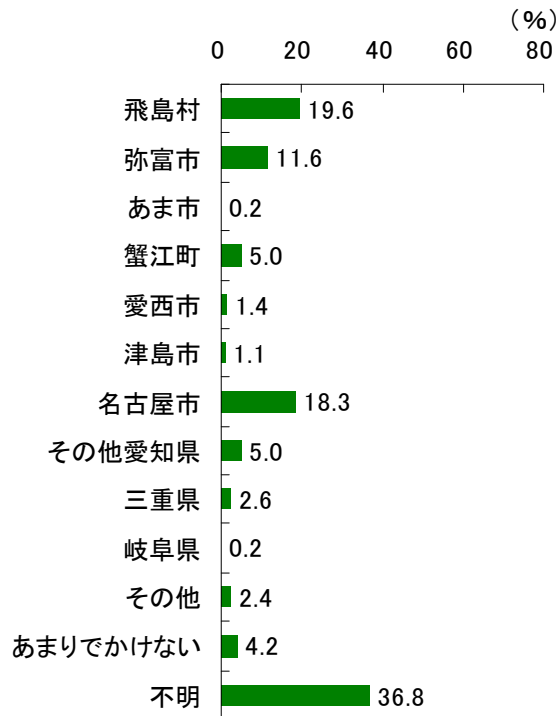
(6) 村外での居住歴



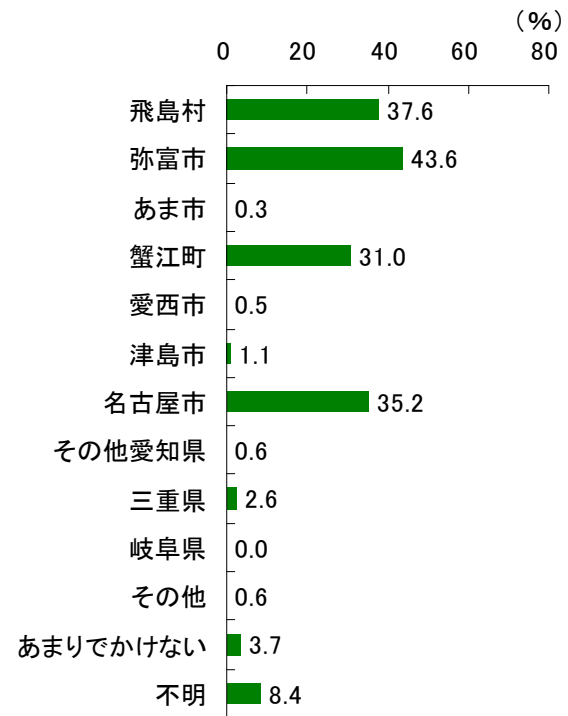
問2. あなたの普段の生活行動について、おたずねします。

③あなたが次の行動をする場合、どこへ行くことが多いですか。次の各行動について、該当する地域の番号を2つまで選んで○印をつけてください。

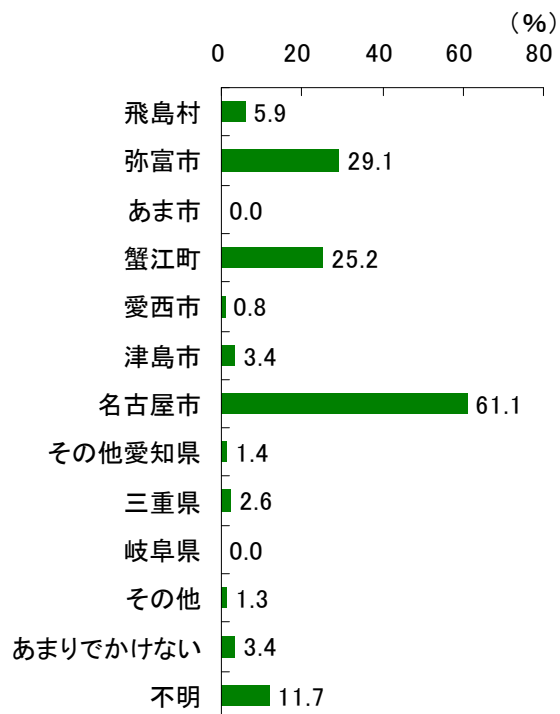
(ア) 通勤・通学



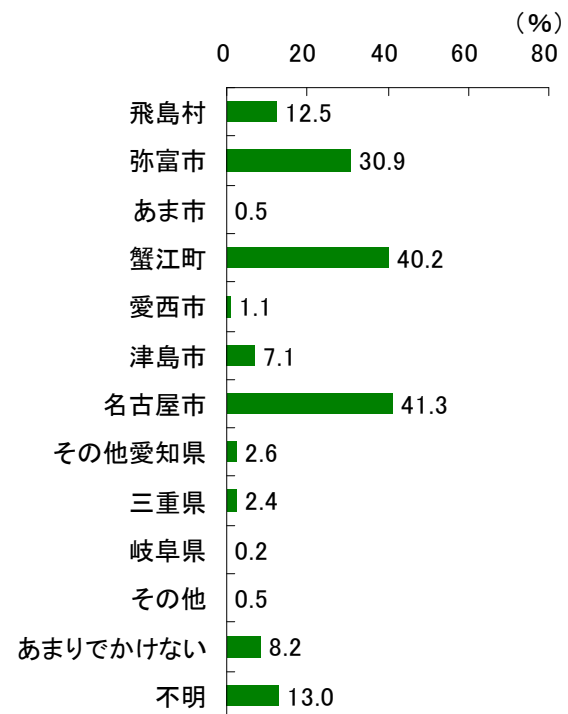
(イ) 日常の買い物（食品等）



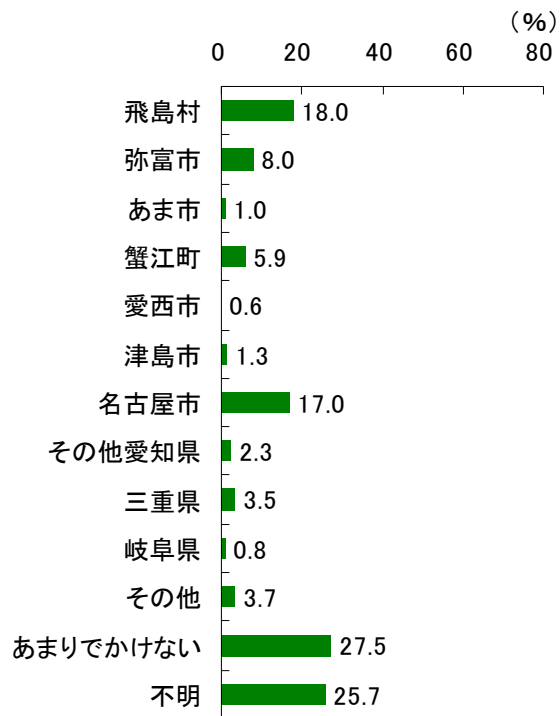
(ウ) 休日の買い物（贈答品等）



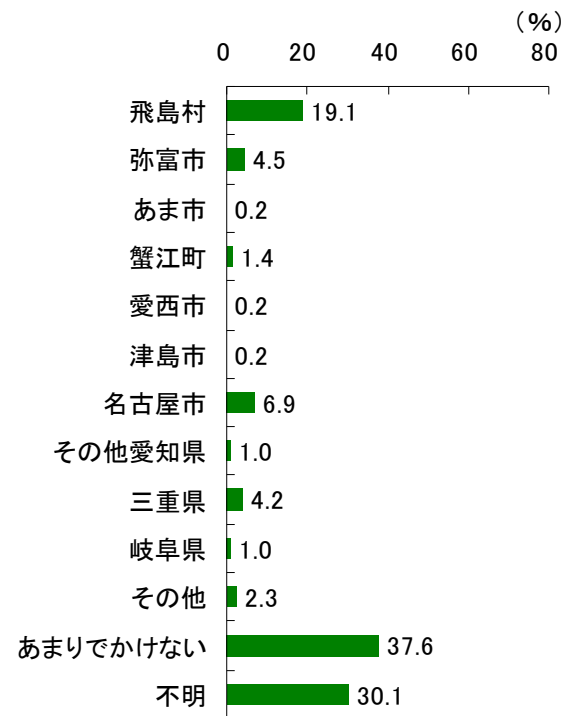
(エ) 外食（昼食や夕食等）



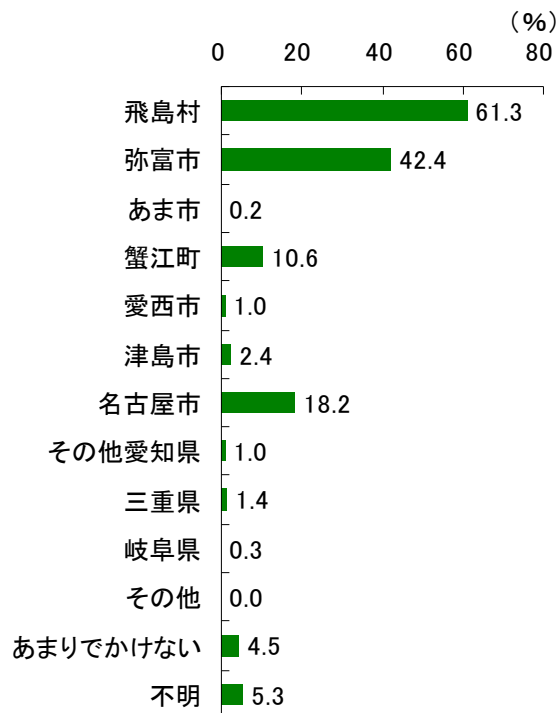
(オ) 趣味・習い事



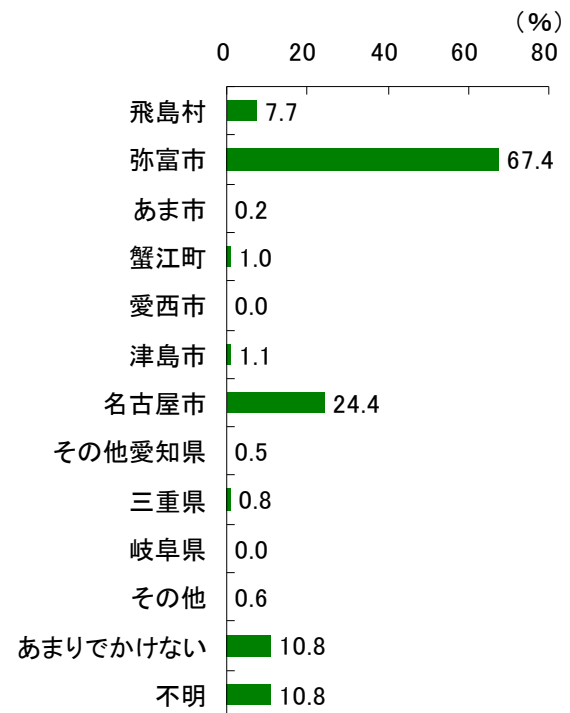
(カ) スポーツ活動



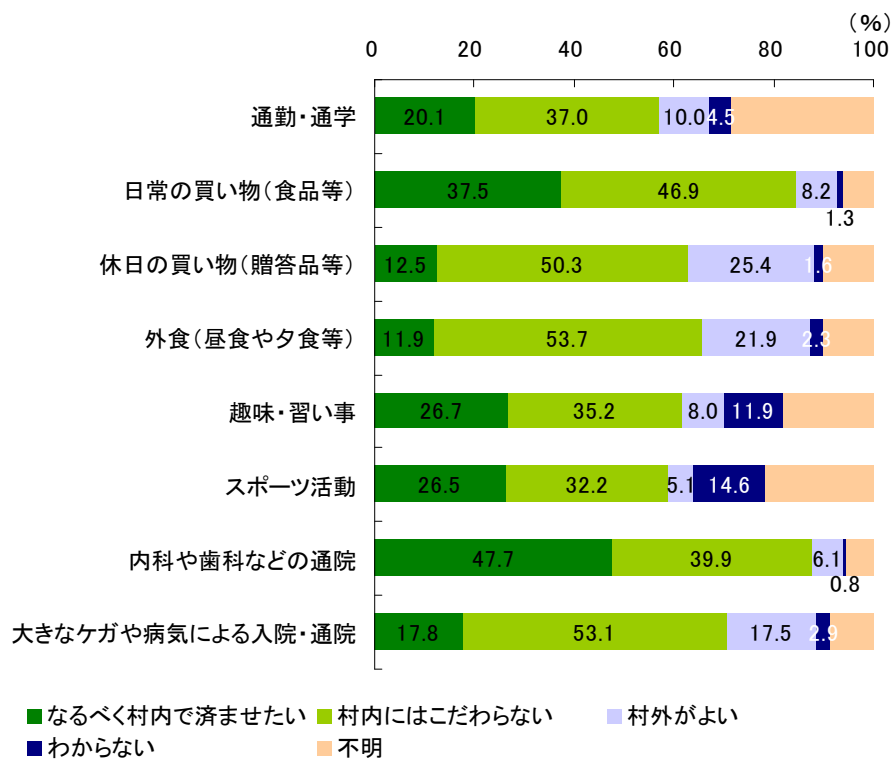
(キ) 内科や歯科などの通院



(ク) 大きなケガや病気による入院・通院



④あなたが次の行動をする際に、村内で済ませたいと考えるものは何ですか。次の各行動について、該当するものを1つずつ選んで○印をつけてください。



2 事業所向けアンケート調査

(1) 調査概要

対 象	飛島村内に立地する 300 事業所
調査手法	記入式・郵送回収
調査期間	～2010 年 10 月 1 日（金）
回収数・回収率	186 票・62.0%
設 問	問 1 事業所について 問 2 経営の現状および今後の見通しについて 問 3 飛島村に立地する魅力について 問 4 飛島村の行政に対する要望について 問 5 地域住民との交流活動について 問 6 地域交通（飛島バス）について

○報告書の見方

- ・ 本報告書の表、グラフ等の見出しおよび文書中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。

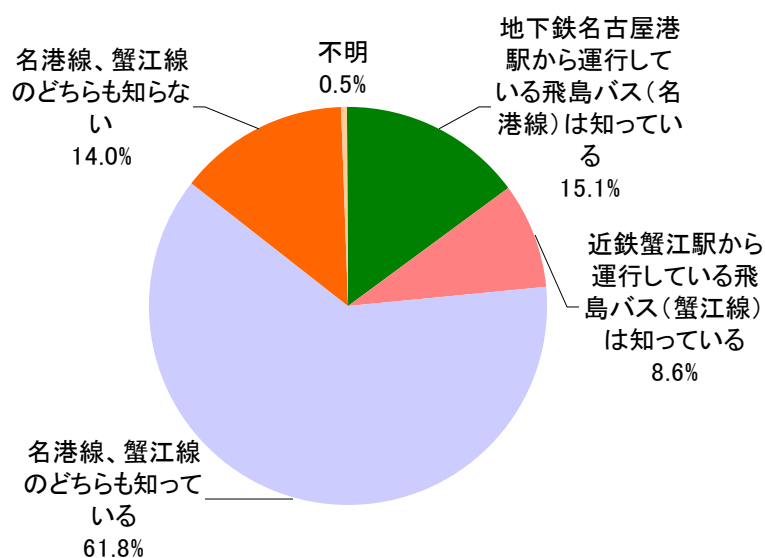
(2) 集計結果

問6. 地域交通（飛島バス）について、おたずねします。

①以降の質問は、ご記入いただく方がわかる範囲でお答えください。

飛島村では、従業員の皆様の通勤手段を確保することを目的に、「飛島バス（名港線・蟹江線）」を運行しています。あなたは、飛島バスをご存じですか。

○「名港線・蟹江線のどちらも知らない」との回答が 14%あり、100%の認知度とはなっていない。

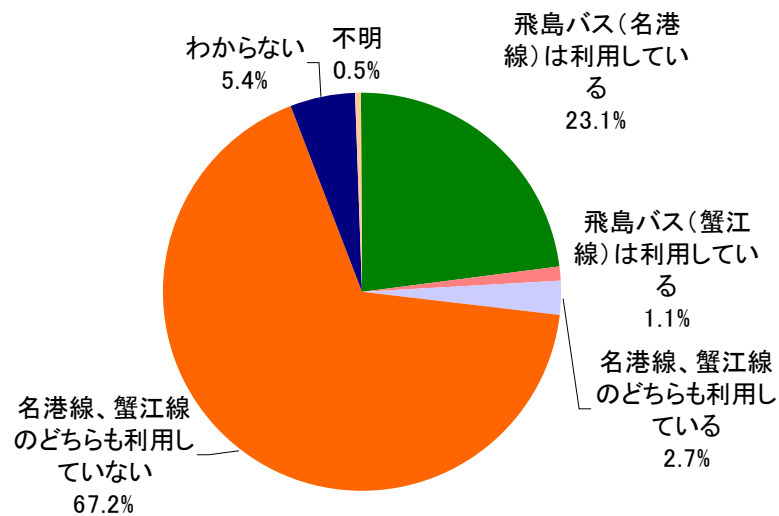


⑫ 貴事業所の従業員の方は、飛島バス（名港線・蟹江線）を利用したことがありますか。

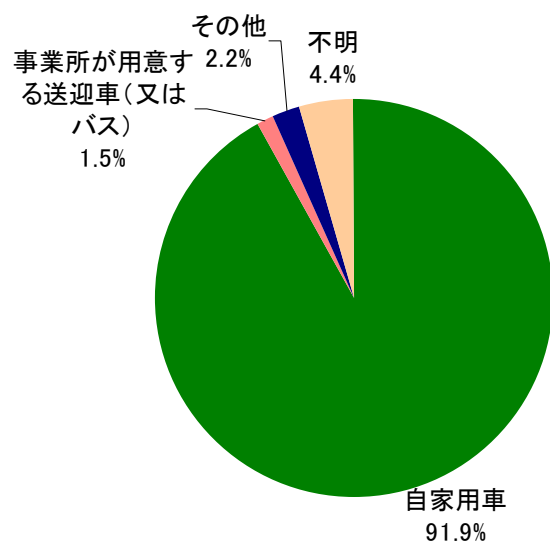
○ 従業員の飛島バスの利用状況について、「わからない」との回答は約5%で、通勤手段の実態は把握されている。

○ 「名港線・蟹江線のどちらも利用していない」との回答が約67%で、その内約92%が「自家用車」での通勤となっている。

○ バスの利用は約25%程度で、自動車に依存した通勤状況となっている。

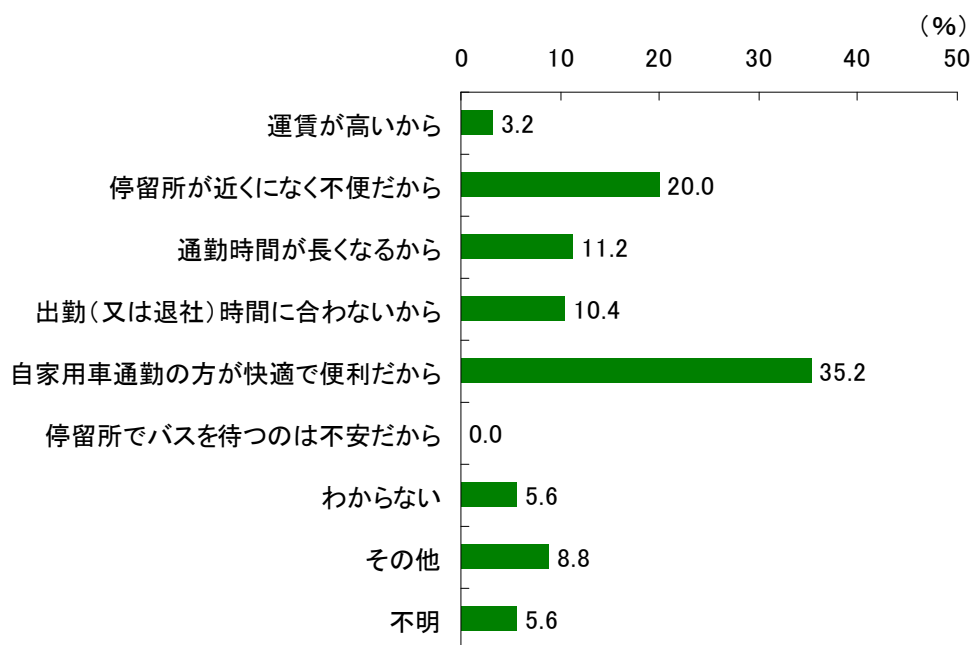


※ 「名港線、蟹江線のどちらも利用していない」又は「わからない」と回答された方は、従業員の方の主な通勤手段についてその番号を1つ選んで○印をつけてください。



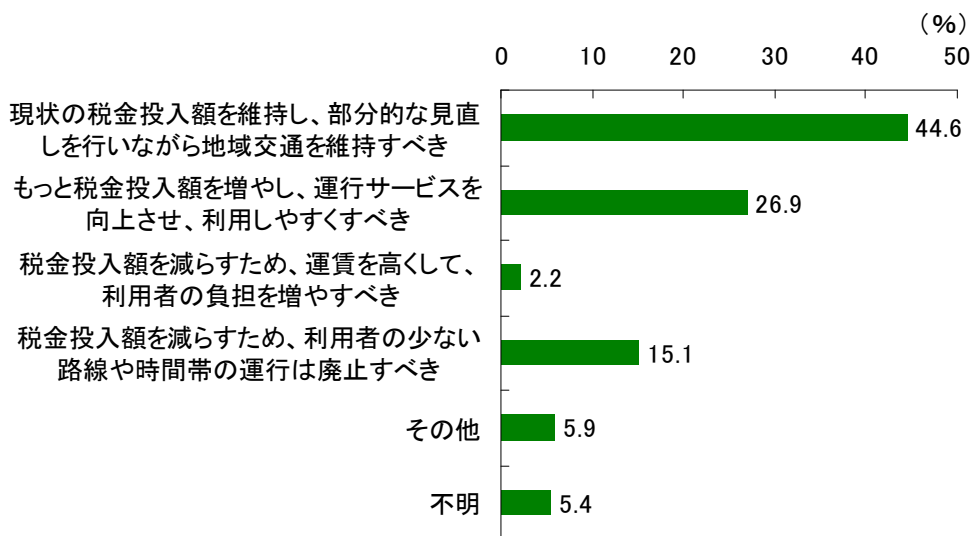
⑬問⑫で「名港線、蟹江線のどちらも利用していない」と回答された方にお伺いします。貴事業所の従業員の方が「飛島バス」を利用しない理由として、最も近いものを1つだけ選んで○印をつけてください。

○飛島バスが利用されない理由は、「自家用車通勤の報が快適で便利だから」が約 35%と最も多く、次いで「停留所が近くになく不便だから」が 20%となっている。
○朝夕の通勤による渋滞緩和を図るには、公共交通の充実を進めるだけでなく、「利用者側の意識転換」が伴わなければ、飛島バスの利用は向上しないものと思われる。

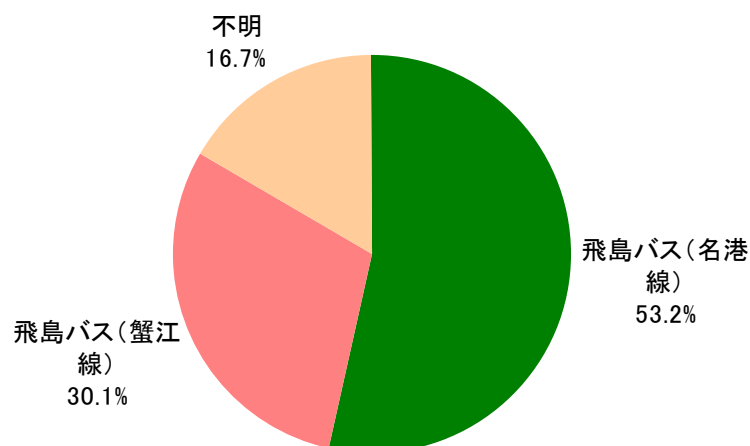


⑭「飛島バス」の運行費用は、飛島村の税金と運賃などによってまかなわられています。これまでも、利用しやすい公共交通を目指し様々な改善を行ってきましたが、大幅な改善をすることで、運行費の負担が増えることも考えられます。今後の対応について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○印をつけてください。

○「税金投入額を維持し、部分的な見直しにより維持すべき」との回答が約45%と最も多く、「次いで税金投入額を増やし、運行サービス向上させるべき」との回答が約27%となっている。
○これ以上の税金投入は指示されていない。

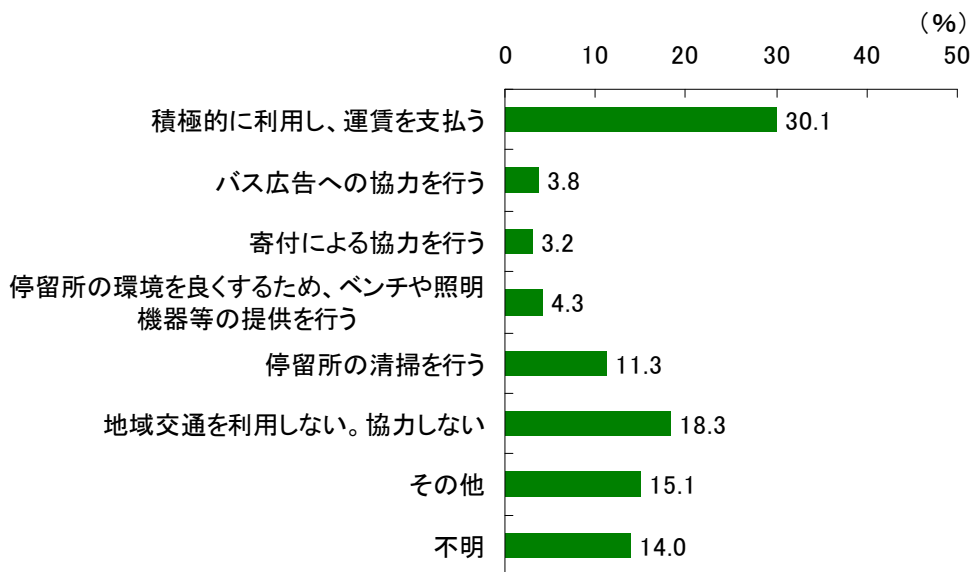


⑮問⑭で、特にそのように思った路線は、どちらですか。あてはまる番号を1つだけ選んで○印をつけてください。

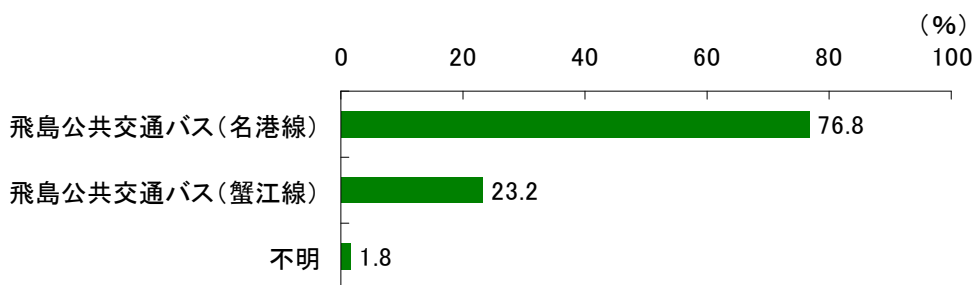


⑩税金投入額を削減し、地域交通を維持するためには、事業所の皆様の積極的な協力が必要不可欠です。貴事業所が、地域交通の確保に向けて協力できることはありますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○印をつけてください。

○税金投入額の削減に対して、「積極的に利用し、運賃を支払う」との回答が最も多かった。
 ○「バス広告」「寄付」「ベンチ等の提供」「清掃活動」といった協力についても僅かであるが認められた。



※「積極的に利用し、運賃を支払う」と回答された方は、どの路線が利用できますか？

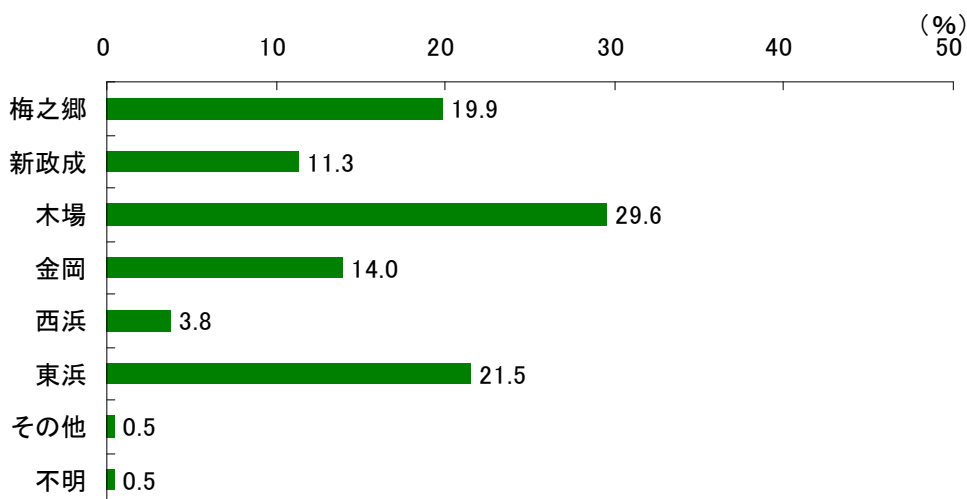


(3) 参考データ

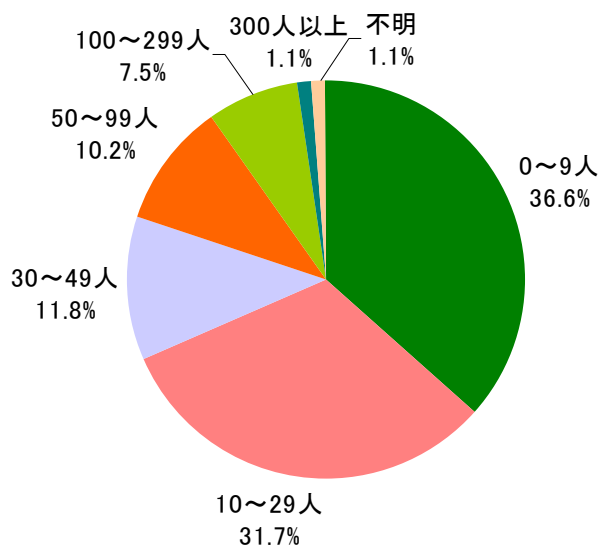
問1. まず、貴事業所について、おたずねします。

①貴事業所について、(1)～(3)の各項目で当てはまるものを選んでください。((1)以外はそれぞれ1つに〇))

(1) 事業所の場所 (該当するものすべてに〇)



(2) 事業所の従業員数 (非正規従業員を含む)



(3) 業種

